

# 事業概要

— 令和2年度版 —

社会福祉法人 青 い 鳥  
横須賀市療育相談センター



## はじめに

平成 20 年 4 月の開設から 12 年、干支が一巡して二回目の子（ねずみ）年を迎えました。これまで当センターを支えて下さってきた数多くの皆さまに、心よりの感謝と御礼を申し上げます。

さて、これを書いているのは令和 2 年の 11 月です。新型コロナウイルスという、誰もが予想すらしていなかったパンデミックの大波に、当センターも襲われました。

しかし、コロナ禍でも発達支援は待ったなしです。緊急事態宣言が発出された令和 2 年 4 月からおよそ二か月間は、規模を縮小してサービス提供を行いました。その後は少しずつ拡大し、現在は平常時に近い状態で発達支援をしています。勿論、感染には細心の注意を払って取り組んでいます。来年の今頃には一段落していることを祈るばかりです。

コロナを経験した世界や日本では、さまざまなことが変わっていくと思われます。発達支援もまた同様です。思いもかけなかった新しいニーズが出てくるかもしれません。センターに求められる多様なニーズにお応えすることで子どもと家族の笑顔が増えることを目指し、オール横須賀の心意気で、発達支援に精進していきます。

引き続き、皆様方のご支援をお願いいたします。

令和 2 年晩秋

社会福祉法人青い鳥  
横須賀市療育相談センター  
所長 広瀬 宏之

# 横須賀市療育相談センターの運営方針

横須賀市療育相談センターは横須賀市にお住いの発達の違いや障害のあるお子さん、発達に不安のあるお子さんを対象としたセンターです。

乳幼児期から就学前までのお子さんには療育相談・診療・訓練・各種教室や通園支援を行い、就学後から概ね 18 歳までのお子さんには療育相談・診療・訓練を行います。

利用されるお子さんご家族が安心して生活できるように、以下の三つの基本理念に沿って療育を行うとともに、地域における様々な療育活動を支援します。

## 基本理念

- 1、子どもと家族によりそい、心あたたまる療育を提供します。
- 2、時代に先んじた、専門性の高い療育を提供します。
- 3、横須賀に根ざし、地域とともにある療育を提供します。

人間が人間にかかわるという原点を忘れないようにしたいと思います。どんなに技術が進んでも人間にまさる癒し手はありません。全ての生物に備わっているはずの「利他の精神」を第一に考えたいと思います。

発達障害の概念や知識は日進月歩の勢いで変化しています。発達障害を医学の力で完全に治すことはまだできませんが、それでも、彼ら・彼女たちの生活の困難さを少しでも和らげることのできるよう、そして、我々の日々の仕事がルーチンに陥らないよう、専門性を追及し続けたいと思います。

いまや、発達障害の比率は人口の 1 割に及びます。もっとも大切なことは、療育相談センターだけですべてが完結するのではない、ということです。子どもたちを取り巻く全ての人々が、彼ら・彼女たちの特徴を理解し、それに見合った関わりをしていってもらえるよう、微力ながらお手伝いしたいと思います。

# 目 次

はじめに

横須賀市療育相談センターの運営方針・基本理念

## I 施設の概要

|                         |   |
|-------------------------|---|
| 1. 施設の概要                | 1 |
| 2. 建物平面図                | 3 |
| 3. 組織図                  | 5 |
| 4. 横須賀市療育相談センター利用の基本的流れ | 6 |

## II 業務の内容

|                   |    |
|-------------------|----|
| 概 況               | 7  |
| 令和 元 年度の主な実績      | 8  |
| 1. 地域生活支援部門       | 11 |
| 2. 診療部門           | 17 |
| (1) 診療室           | 17 |
| (2) 心理            | 20 |
| (3) 理学療法          | 23 |
| (4) 作業療法          | 25 |
| (5) 言語聴覚療法        | 27 |
| (6) 摂食外来          | 30 |
| (7) 補装具外来         | 31 |
| (8) かもめグループ       | 32 |
| (9) すずらんグループ      | 33 |
| 3. 通園部門           | 34 |
| 4. 管理部門           | 45 |
| 5. そ の 他          | 49 |
| (1) 学会発表、講演、論文    | 49 |
| (2) 所内研修          | 50 |
| (3) 視察・見学者等の受入れ状況 | 51 |

## III 資料編

|                 |    |
|-----------------|----|
| 1. 社会福祉法人青い鳥の沿革 | 53 |
| 2. 役員名簿         | 60 |



# I．施設の概要





# 1. 施設の概要(令和2年4月1日現在)

(1) 所在地 神奈川県横須賀市小川町 16 番地

(2) 対象エリア 横須賀市

(3) 利用対象 発達の遅れや障害のあるお子さんとそのご家族

(4.) 施設内容

①診療所：小児神経科・小児精神科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、  
小児歯科（摂食外来）

②通園施設（ひまわり園）：福祉型児童発達支援センター 定員 50 人  
医療型児童発達支援センター 定員 40 人

(5) 施設機能

①地域生活支援部門：障害児の療育に関する相談（外来相談、電話相談、巡回相談）  
他機関との連携  
（健康福祉センター、こども家庭支援センター、幼稚園・保育園、  
学校等）  
各種教室の開催（親子教室、早期療育教室、療育教室）

②診療部門：発達の遅れや障害のあるお子さんに対する相談・検査・診療と専門職による  
訓練等の個別及びグループでの支援（心理、理学療法、作業療法、言語  
聴覚療法など）

③通園部門：障害に配慮しながら、健康な身体・基本的な生活習慣・豊かな人間関係育成  
のために、個別療育目標を作成し、一人ひとりのお子さんに応じた療育支援

④管理部門：施設管理及び人事労務、会計処理、栄養管理及び相談・指導

(6) 配置職員

①地域生活支援部門：ソーシャルワーカー、保育士、児童指導員、事務員  
②診療部門：医師、看護師、心理士、理学療法士、作業療法士、  
言語聴覚士、臨床検査技師  
③通園部門：保育士、児童指導員  
④管理部門：事務員、医療事務員、管理栄養士

(7) 建物概要

①規模・構造：施設面積 4,226.85 m<sup>2</sup>  
延床面積 8,684.37 m<sup>2</sup>  
構 造 鉄筋コンクリート造  
規 模 地下1階、地上5階、塔屋1階

- ②施設内容 : 1階 保育室(12)、遊戯室、家族研修室、水治療室、相談室、  
医務室、託児室、ラウンジほか  
2階 職員室  
4階 診察室(3)、相談室(3)、会議室、観察室(2)、脳波検査室、  
聴力検査室、生活訓練室(3)、言語室(2)、心理室(3)、  
運動療法室(6)ほか
- ③その他 : 1階 横須賀市役所 こども育成部  
2階 横須賀市役所  
3階 横須賀市役所 こども家庭支援センター  
5階 横須賀市役所 こども育成部・こども家庭支援センター

(8) 設置運営 設置主体：横須賀市  
運営主体：社会福祉法人青い鳥

(9) 開 所 : 平成20年(2008年)4月1日

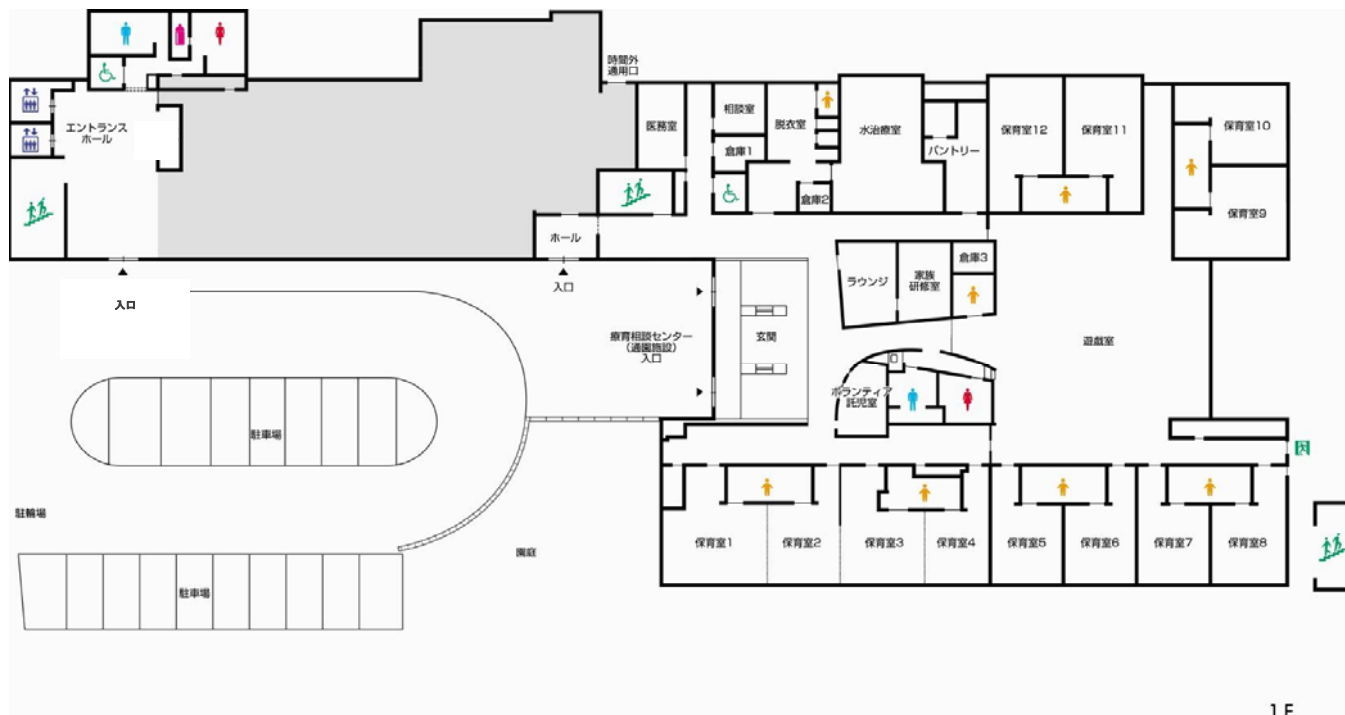
「はぐくみかん」の施設設備

| 階 | 施設名 〔療育相談センターの施設構成〕                              |                                                                                           |
|---|--------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5 | こども育成部・こども家庭支援センター                               |                                                                                           |
| 4 | 療育相談センター<br>診療部門・地域生活支援部門(1,230 m <sup>2</sup> ) | 診察室(3)、相談室(3)、会議室<br>観察室(2)、脳波検査室、聴力検査室<br>生活訓練室(3)、言語室(2)、心理室(3)<br>運動療法室(6)ほか           |
| 3 | こども家庭支援センター                                      |                                                                                           |
| 2 | 療育相談センター事務所(433 m <sup>2</sup> )<br>〔職員室〕        |                                                                                           |
| 1 | こども育成部                                           | 療育相談センター通園部門(1,388 m <sup>2</sup> )<br>保育室(12)、遊戯室、家族研修室、<br>水治療室、相談室、医務室、託児室、<br>ラウンジ ほか |

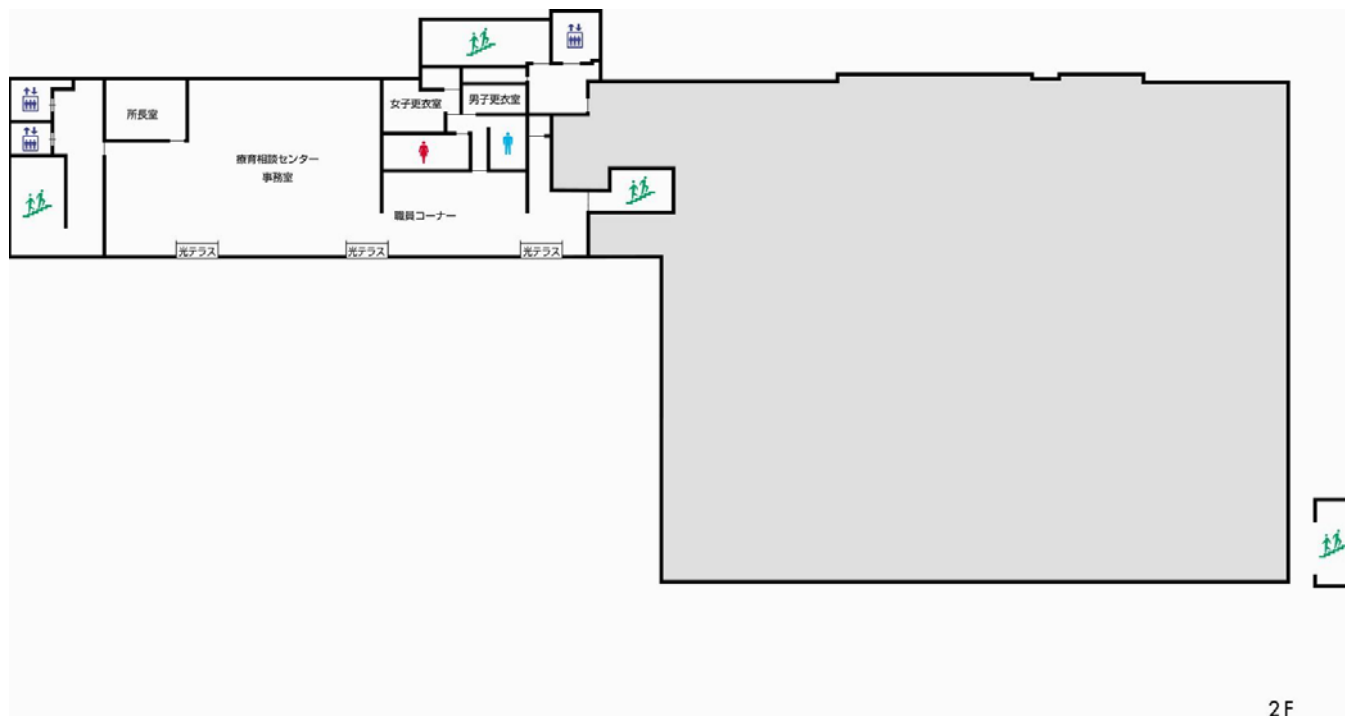
※療育相談センター専有面積 3,051 m<sup>2</sup>(はぐくみかん延床面積 8,684 m<sup>2</sup>)

## 2. 建物平面図（療育相談センター部分のみ）

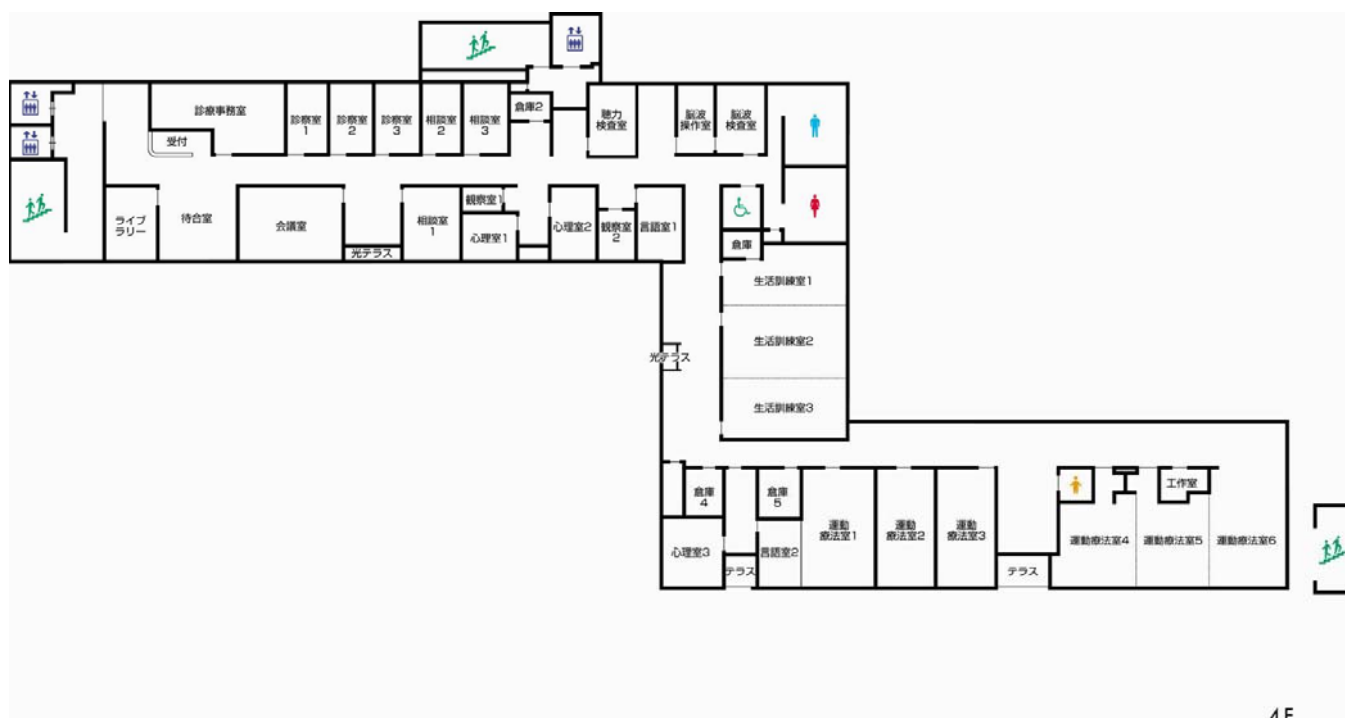
### 1F 通園施設



### 2F 職員室



#### 4F 診療・相談部門



4F

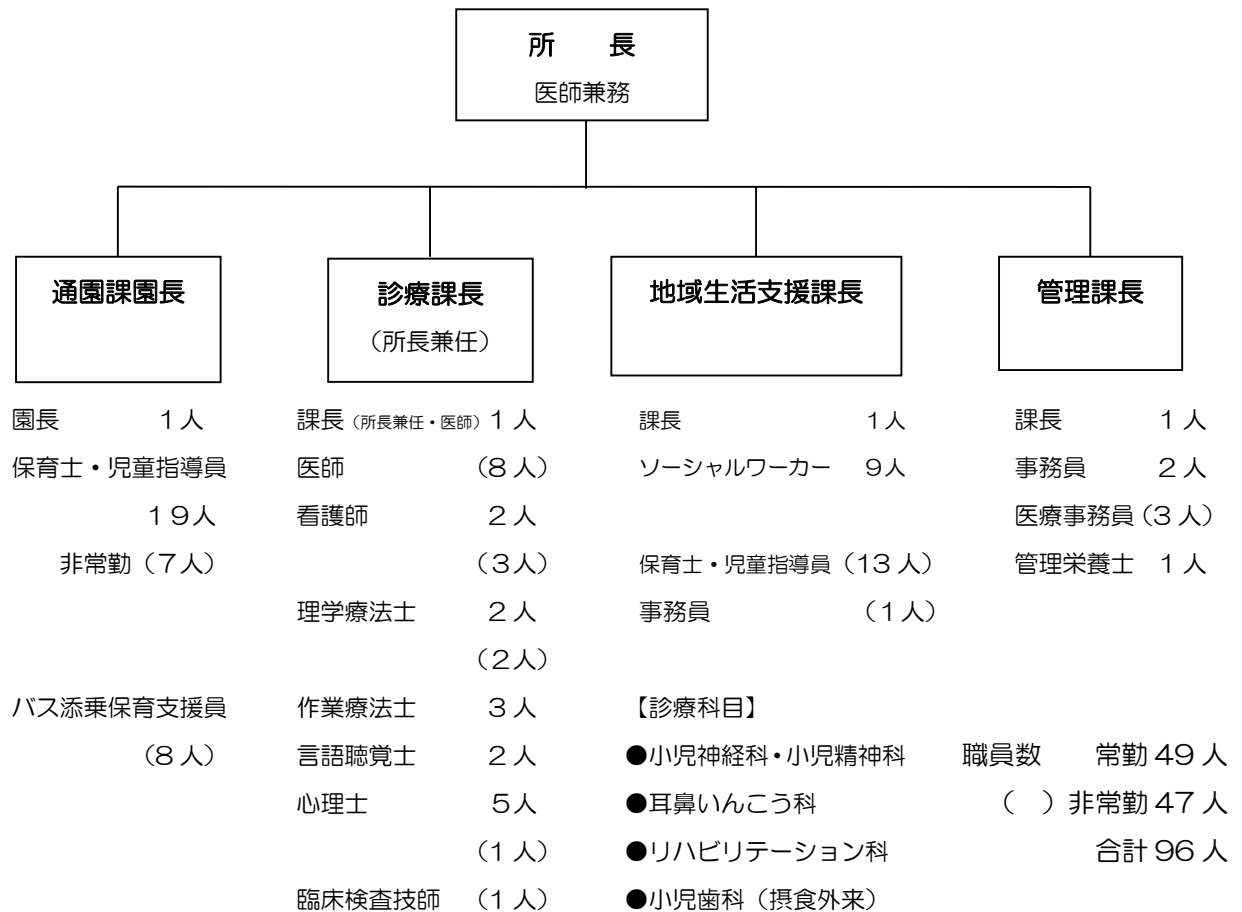


はぐくみかん施設外観

### 3. 組織図

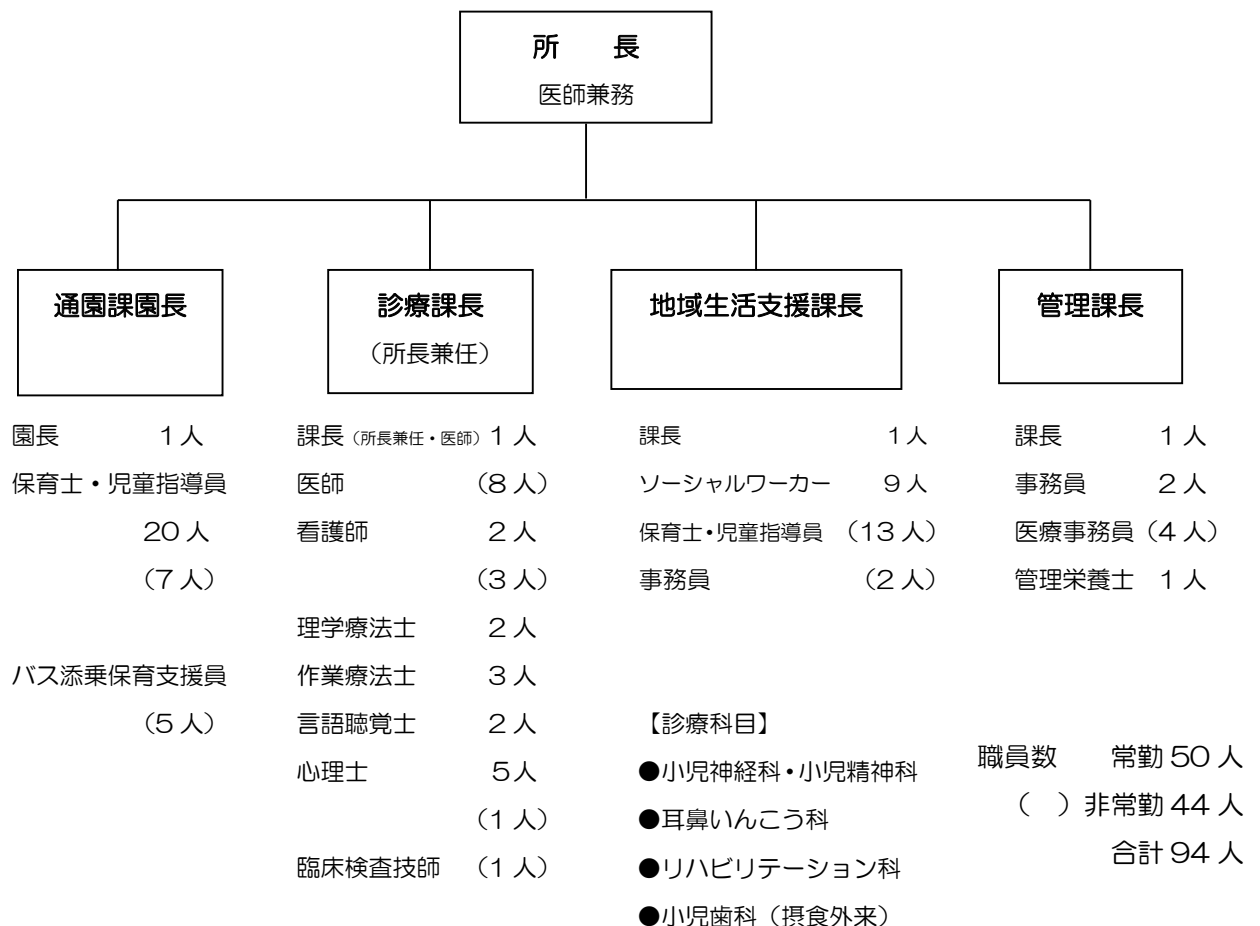
平成31年度 横須賀市療育相談センター組織図

平成31年4月1日現在

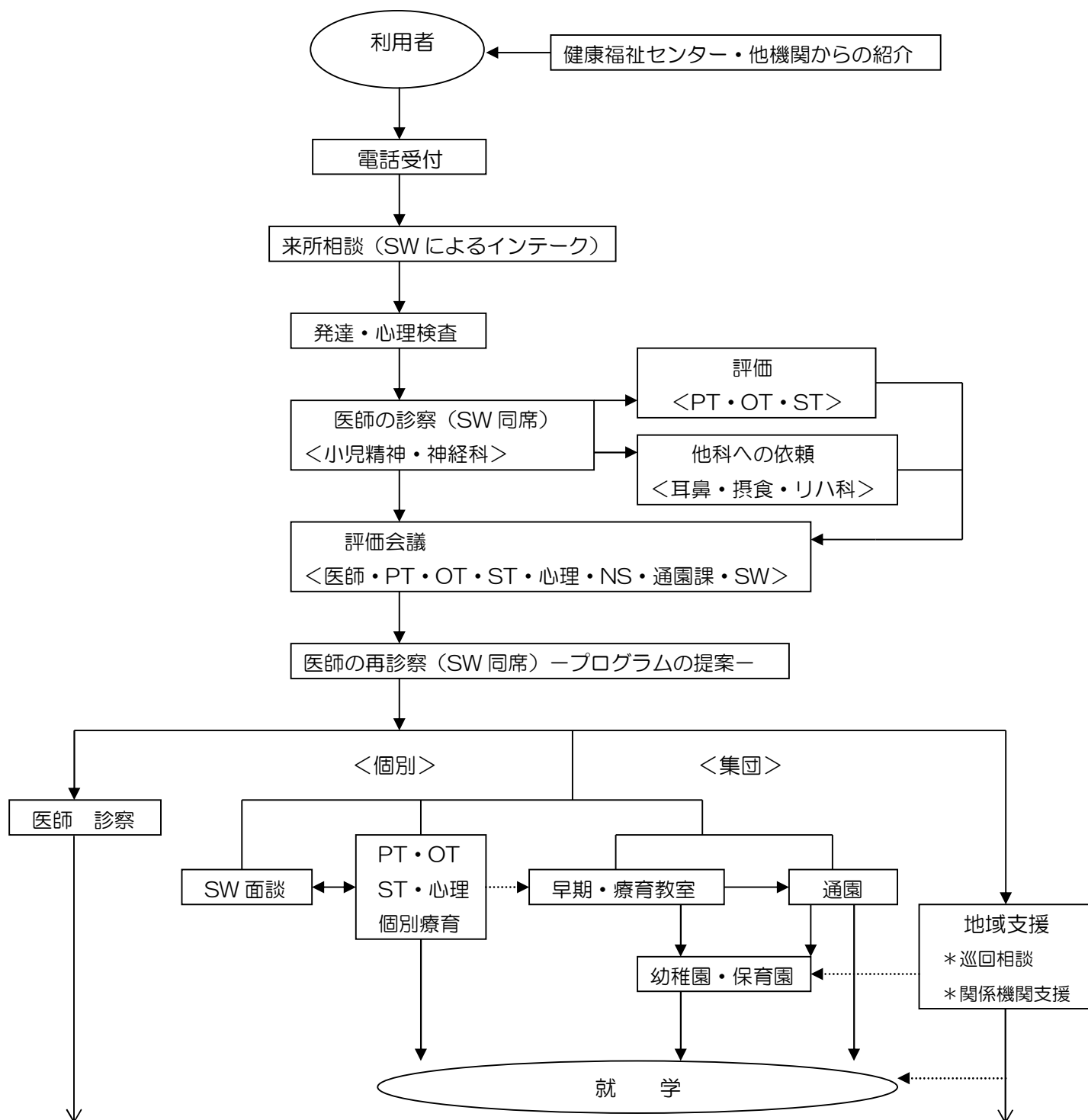


令和2年度 横須賀市療育相談センター組織図

令和2年4月1日現在



#### 4. 横須賀市療育相談センター利用の基本的流れ



医師診察を基本とした相談の継続（17 歳まで）

## Ⅱ. 業 務 の 内 容

### (令和元年度実績)





## 概 況

令和元年度の主な実績が 8 ページから 10 ページまでに記されております。その後、11 ページから各部門の報告が記されています。

令和元年度は常勤・非常勤あわせて 94 人のスタッフでスタートしました。

診療部門では初診が 803 人、再診も合わせると、のべ 11,999 人の訓練・診療を行いました。

通園部門（ひまわり園）では医療型児童発達支援センター 10 人、福祉型児童発達支援センター 107 人、合計 117 人の在籍で、利用のべ人数は 7,715 人でした。

地域生活支援部門での相談は、のべ 7,482 件でした。親子教室、早期療育教室・療育教室の参加者は、のべ 2,650 人でした。

当センターでは従来通り、関係各機関と連携しながらより中身の濃い療育を行ってきました。巡回相談は、のべ 174 件に及んでいます。

相談支援事業では、サービス利用計画の作成件数は 718 件、モニタリングは 981 件に上りました。

全国的にみて、ほとんどの療育センターは幼児期中心の支援ですが、当センターでは 18 歳未満までが対象です。初診の半数以上が小学校以降のお子さんです。学校からのご紹介も常となっています。

関係機関との連携もより緊密にしつつ、横須賀市が全ての子どもたちにとって暮らしやすい街になるよう、支援していきたいと思います。

## 令和元年度の主な実績

### (1) 診療部門

#### ①診療件数

表 1

| 初 診 | 再 診    | 合 計    |
|-----|--------|--------|
| 803 | 11,196 | 11,999 |

#### ②診療科目別受診者数内訳

表 2

| 診 療 科 目         | 初 診 | 再 診    | 合 計    |
|-----------------|-----|--------|--------|
| 小 児 精 神 ・ 神 経 科 | 801 | 4,627  | 5,428  |
| 耳 鼻 い ん こ う 科   | 2   | 43     | 45     |
| リハビリテーション科      | 0   | 235    | 235    |
| 小児歯科（摂食外来）      | 0   | 139    | 139    |
| 心 理 療 法         | 0   | 2,397  | 2,397  |
| 理 学 療 法         | 0   | 1,074  | 1,074  |
| 作 業 療 法         | 0   | 1,348  | 1,348  |
| 言 語 療 法         | 0   | 1,048  | 1,048  |
| 外来患者の看護及び診療介助   | 0   | 280    | 280    |
| 臨 床 検 査         | 0   | 5      | 5      |
| 合 計             | 803 | 11,196 | 11,999 |

#### ③新規ケースの年齢別内訳

表 3

| 年 齢         | 人 数 | %     |
|-------------|-----|-------|
| 未就学児（0～5 歳） | 323 | 40.2  |
| 学齢児（6～17 歳） | 480 | 59.8  |
| 合 計         | 803 | 100.0 |

### (2) 通園部門

#### ①施設別在籍児童数

表 4

| 施設名           | 在籍児童数 | のべ通園児童数 |
|---------------|-------|---------|
| 医療型児童発達支援センター | 10    | 1,044   |
| 福祉型児童発達支援センター | 107   | 6,671   |
| 合 計           | 117   | 7,715   |

※在籍児童数は、令和2年3月末時点

(3) 地域生活支援部門

①相談別件数内訳

表 5

| 相談別件数    | 新規相談  | 再相談   | 合 計   |
|----------|-------|-------|-------|
| 電 話 相 談  | 631   | 4,737 | 5,368 |
| 来 所 相 談  | 569   | 713   | 1,282 |
| 教室での会場相談 | 85    | 651   | 736   |
| 居 宅 訪 問  | 0     | 96    | 96    |
| 合 計      | 1,285 | 6,197 | 7,482 |

\*居宅訪問は平成 25 年 7 月から開始。

②保護者の同意による巡回相談訪問先施設

表 6

| 訪問先施設   | 幼稚園 | 保育園 | こども園 | 学校 | 家庭訪問 | その他 | 合 計 |
|---------|-----|-----|------|----|------|-----|-----|
| 訪 問 回 数 | 75  | 33  | 34   | 28 | 0    | 4   | 174 |
| のべ相談件数  | 119 | 46  | 58   | 36 | 0    | 4   | 263 |

③施設へのコンサルテーションを目的とした巡回相談訪問先

表 7

| 訪問先施設   | 幼稚園 | 保育園 | こども園 | 学校 | 家庭訪問 | その他 | 合 計 |
|---------|-----|-----|------|----|------|-----|-----|
| 訪 問 回 数 | 8   | 5   | 6    | 0  | 0    | 1   | 20  |
| のべ相談件数  | 29  | 12  | 25   | 0  | 0    | 1   | 67  |

④各種教室参加者数

表 8

| 教 室 名         | 回 数 | のべ参加者 |
|---------------|-----|-------|
| 親子教室 (6 教室)   | 211 | 997   |
| 早期療育教室 (6 教室) | 190 | 1,033 |
| 療育教室 (6 教室)   | 115 | 620   |
| 合 計           | 516 | 2,650 |

⑤相談支援事業 計画作成・モニタリング件数

表 9

| 事業種別    | サービス等利用計画件数 | モニタリング件数 |
|---------|-------------|----------|
| 障害児相談支援 | 718         | 979      |
| 特定相談支援  | 0           | 2        |
| 合 計     | 718         | 981      |

#### (4) 地域支援等

##### ① 療育講演会の開催

表 10

| 実施日  | 講演会のテーマ            | 講師等（敬称略）                  | 参加者数 |
|------|--------------------|---------------------------|------|
| 8月1日 | 「学び方の異なる子どもの理解と支援」 | 国立特別支援教育総合研究所<br>海津 亜希子 氏 | 129人 |

参加対象者：障害のあるお子さんまたは発達に心配のあるお子さんをお持ちの保護者及び支援者（横須賀市在住の方）

##### ②発達支援コーディネーター研修（横須賀市主催事業） 4日間コース受講者：40人

9月9日 センター所長が基調講演講師として協力。「発達障害の理解と対応のコツ」  
聴講者：91人（4日間コース受講者40人含む）

10月16日 地域生活支援課長が講師として協力。「横須賀市の現状と取り組み 療育相談センターについて」

10月16日 心理士、ST、OTが講師として協力。

##### ③発達支援コーディネーターフォローアップ研修（横須賀市主催事業） 3日間コース受講者：18人

7月26・30日 通園課園長が講師として協力。「ひまわり園の概要」

##### ④横須賀市私立幼稚園協会 職員研修

9月11日 地域生活支援課長・通園課園長が講師として協力。「横須賀市療育相談センターの概要とひまわり園について」

10月16日 地域生活支援課主任、診療課主任・心理士が講師として協力。「発達障害のこどもの理解と支援」

11月13日 地域生活支援課主任、診療課心理士が講師として協力。「支援が必要なこどもの保育を一緒に考えよう」

#### (5) その他

センターとして保育所等訪問支援事業の検討を行いました。

##### 保育所等訪問支援事業準備プロジェクト

- ・ソーシャルワーカー、保育士、心理士、作業療法士が、プロジェクトに参加しました。
- ・打ち合わせを6回行いました。
- ・幼稚園に4回（ソーシャルワーカー、保育士、心理士）、保育園に3回（ソーシャルワーカー、心理士、作業療法士）が訪問して、支援を行いました。

## 1 地域生活支援部門

### (1) はじめに

令和元年度は、地域生活支援課長ほかソーシャルワーカー（以下、SW）9人、非常勤保育士・児童指導員13人、非常勤事務員2人で業務にあたりました。SWは18歳未満のお子さんの発達や障害に関するさまざまな相談に対応し、地域の関係機関と連携をしながら、地域生活の支援を行いました。また、親子教室・早期療育教室・療育教室を担当し、保育士・児童指導員や診療課スタッフと共に教室運営や療育を行い、保護者の方の相談に対応しました。

### (2) 地区担当 SW の業務

主な業務は、①新規相談の受付（電話受付・インテーク等） ②初診・再診・療育プログラム面談の同席 ③療育プログラムの作成 ④療育プログラムに基づいた継続相談 ⑤関係機関との連携 ⑥幼稚園・保育園、学校等への巡回訪問等によるセンター利用児及び家族の地域生活支援 ⑦教室利用、通園入園、就園・就学等への進路相談の支援 ⑧サービス等利用計画の作成など相談支援を行っています。

### (3) 令和元年度相談概況

令和元年度の新規相談件数は1,285件あり、そのうち電話相談は631件、来所相談は569件、会場相談は85件でした。再相談は、6,197件でした。（表1-1）

内容別相談件数は、表1-3のとおりです。相談の始まりは、発達全般・子育て全般や関わり方などが主であり、インテーク後からお子さんの発達の特徴や障害について、徐々に保護者に寄り添いながら共に理解していく姿勢の大切さが求められています。また、所属集団についての相談や就園・就学についての相談も多く、保護者・所属集団と協力しながら、地域における集団生活の中での支援も求められています。近年、計画相談の相談が増加し続けています。児童発達支援事業所、放課後等デイサービスが増えていくこと、生活を充実させたいという希望の現れだと考えています。

新規電話相談の紹介元は表1-4のとおり、多岐にわたっています。健康福祉センターからの紹介を中心に、医療機関、幼稚園・保育園、学校等からの紹介も多くありました。また、保護者の方自ら心配してインターネット等で調べて相談する方も多くいます。

表1-5では、学齢児の新規相談が増えていることがわかります。小学校入学後、学力や集団での生活について子ども自身の困り感が表面化したの相談もありました。

お子さんが所属している集団の中で安心して過ごすために、今後も「丁寧に寄り添う継続的な支援」「地域生活の支援とそのための地域の関係機関との連携」に対応できるシステムがさらに求められています。

相談支援事業所として、通園施設等を利用するお子さん、放課後等デイサービスを利用するお子さんを中心にサービス等利用計画を作成し、モニタリング等も行いました。今後も件数が増えていくことが予想されます。

表 1-1 相談件数

|      | 新規相談  |       |     | 再相談   |       |     | 合計    |
|------|-------|-------|-----|-------|-------|-----|-------|
|      | 元年度   | 前年度   | 前年比 | 元年度   | 前年度   | 前年比 |       |
| 電話相談 | 631   | 606   | 25  | 4,737 | 4,422 | 315 | 5,368 |
| 来所相談 | 569   | 565   | 4   | 713   | 691   | 22  | 1,282 |
| 会場相談 | 85    | 98    | △13 | 651   | 656   | △5  | 736   |
| 居宅訪問 | 0     | 0     | 0   | 96    | 121   | △25 | 96    |
| 合計   | 1,285 | 1,269 | 16  | 6,197 | 5,890 | 307 | 7,482 |

表 1-2 新規電話相談件数

| 管轄健康福祉センター名  | 新規ケース数 | 前年度 |
|--------------|--------|-----|
| 中央健康福祉センター管内 | 271    | 262 |
| 北健康福祉センター管内  | 68     | 76  |
| 南健康福祉センター管内  | 192    | 174 |
| 西健康福祉センター管内  | 39     | 38  |
| そ の 他 ・ 不 明  | 61     | 56  |
| 合計           | 631    | 606 |

表 1-3 内容別相談件数

| 相談内容         | 電話    | 来所    | 会場  | 居宅訪問 | 合計     |
|--------------|-------|-------|-----|------|--------|
| インテーク申込      | 400   | 11    | 0   | 0    | 411    |
| インテーク        | 0     | 551   | 0   | 0    | 551    |
| 発達全般         | 775   | 36    | 134 | 0    | 945    |
| 子育て全般        | 234   | 18    | 117 | 0    | 369    |
| 関わり方         | 617   | 51    | 187 | 0    | 855    |
| 療育プログラム      | 66    | 370   | 4   | 0    | 440    |
| 診察申込         | 254   | 0     | 2   | 0    | 256    |
| 就園・就学        | 217   | 27    | 209 | 0    | 453    |
| 所属集団         | 917   | 52    | 62  | 0    | 1,031  |
| 社会資源・制度      | 647   | 44    | 37  | 0    | 728    |
| 計画相談・障害児相談支援 | 1,549 | 169   | 35  | 96   | 1,849  |
| 関係機関         | 1,918 | 16    | 1   | 0    | 1,935  |
| その他          | 700   | 15    | 41  | 0    | 756    |
| 合計           | 8,294 | 1,360 | 829 | 96   | 10,579 |

\* 複数該当する場合は、それぞれカウントしています。

表 1-4 新規電話相談の紹介元機関

| 紹介元機関名    | 件数  |
|-----------|-----|
| 健康福祉センター  | 108 |
| 医療機関      | 61  |
| 保育園       | 18  |
| 幼稚園       | 30  |
| こども園      | 4   |
| 小学校       | 83  |
| 中学校       | 18  |
| ことばの教室    | 3   |
| 親子教室・療育教室 | 10  |
| 広報（冊子含む）  | 4   |
| 広報（ネット等）  | 131 |
| 利用兄弟児     | 59  |
| こども青少年支援課 | 13  |
| 児童相談所     | 10  |
| 障害福祉課     | 9   |
| その他       | 70  |
| 合計        | 631 |

表 1-5 新規電話相談利用児童数

|     | 元年度 | 前年度 | 前年比  |
|-----|-----|-----|------|
| 就学前 | 349 | 364 | △ 15 |
| 就学後 | 282 | 242 | 40   |
| 合計  | 631 | 606 | 25   |

表 1-6 相談支援事業 計画作成・モニタリング件数

| 事業所別        | サービス等利用計画 |     |     | モニタリング |     |     |
|-------------|-----------|-----|-----|--------|-----|-----|
|             | 元年度       | 前年度 | 前年比 | 元年度    | 前年度 | 前年比 |
| 障害児<br>相談支援 | 718       | 540 | 178 | 979    | 779 | 200 |
| 特定<br>相談支援  | 0         | 1   | △1  | 2      | 1   | 1   |
| 合 計         | 718       | 541 | 177 | 981    | 780 | 201 |

#### （４）教室担当 SW の業務

主な業務は、①担当する教室の運営（連絡調整を含む） ②教室参加児童の療育 ③教室参加の保護者への支援や保護者向けの勉強会 ④通園や幼稚園・保育園等への進路相談等を行っています。

i) 早期療育教室及び療育教室（表 1-7～8）では、運動や知的な発達に遅れや障害があるお子さんと保護者が参加して、楽しく療育を行いながら、育児やこれからの療育・進路等について相談をする教室です。

早期療育教室・療育教室共に当センターの外来診療を受診後、療育プログラムの一環として保護者に提案しています。早期療育教室・療育教室は担当 SW や保育士だけでなく、診療課スタッフが必要に応じて適宜支援します。早期療育教室では横須賀市で取り組んでいるサポートブック（教育・福祉・家庭をつなぎ、ライフステージが変わっても生涯一貫して、関係者間で支援の方向性の共有を目指すツール）推進事業に協力し、勉強会や作成の支援等も行いました。0～1 歳児の運動発達がゆっくりなお子さんとその保護者を対象としたグループ（らっこ）を月 1 回開催しています。子どもたちはゆったりとした雰囲気の中で楽しく過ごし、保護者は保護者同士の交流や情報交換等ができることを目

的とした教室です。ゆとりのあるプログラムの中で親子ともに充実した時間が過ごせた様子でした。

- ii) 親子教室（表 1-9）は 1 歳半健診や 3 歳半健診等でことばが遅い、友だちとうまく遊べないなどの心配のあるお子さんと保護者が参加しています。保育を中心としたプログラムを通して、子育てや発達について保護者と一緒に考えていく教室です。

親子教室の参加は、当センターの外来診察は不要です。健康福祉センターからの紹介で、お子さんに合う教室をご案内しています。親子教室には SW と保育士、そして診療課スタッフ（心理）が適宜入ります。

表 1-7 早期療育教室

会場：療育相談センター

| 教室名    | 対象児             | 開催日数 |     |     | 参加人数  |       |      |
|--------|-----------------|------|-----|-----|-------|-------|------|
|        |                 | 元年度  | 前年度 | 前年比 | 元年度   | 前年度   | 前年比  |
| ひよこ教室  | 2 歳を中心とした未歩行児   | 37   | 40  | △3  | 133   | 180   | △47  |
| ペンぎん教室 | 療育が必要な 2 歳児     | 66   | 92  | △26 | 364   | 517   | △153 |
| くじら教室  | 療育が必要な 3 歳児     | 76   | 55  | 21  | 478   | 274   | 204  |
| らっこ教室  | 0～1 歳の肢体不自由のある児 | 11   | 11  | 0   | 58    | 69    | △11  |
| 合計     |                 | 190  | 198 | △8  | 1,033 | 1,040 | △7   |

表 1-8 療育教室

会場：療育相談センター

| 教室名          | 対象児                                    | 開催日数 |     |     | 参加人数 |     |      |
|--------------|----------------------------------------|------|-----|-----|------|-----|------|
|              |                                        | 元年度  | 前年度 | 前年比 | 元年度  | 前年度 | 前年比  |
| ポニー教室<br>年中児 | 幼稚園・保育園に入園<br>している小集団療育<br>が必要な 4・5 歳児 | 40   | 40  | 0   | 258  | 246 | 12   |
| ポニー教室<br>年長児 |                                        | 75   | 74  | 1   | 362  | 509 | △147 |
| 合計           |                                        | 115  | 114 | 1   | 620  | 755 | △135 |

表 1-9 親子教室

| 教室名   | 対象児    | 会場               | 開催日数 |     |     | 参加人数 |       |      |
|-------|--------|------------------|------|-----|-----|------|-------|------|
|       |        |                  | 元年度  | 前年度 | 前年比 | 元年度  | 前年度   | 前年比  |
| コアラ火曜 | 2 歳児   | 三春<br>コミュニティセンター | 38   | 40  | △2  | 204  | 160   | 44   |
| コアラ金曜 | 2 歳児   |                  | 40   | 39  | 1   | 166  | 224   | △58  |
| コアラ水曜 | 2 歳児   | 総合福祉会館           | 29   | 40  | △11 | 179  | 206   | △27  |
| パンダ木曜 | 2・3 歳児 |                  | 40   | 39  | 1   | 154  | 211   | △57  |
| パンダ水曜 | 2・3 歳児 | 総合高校             | 24   | 39  | △15 | 126  | 208   | △82  |
| パンダ金曜 | 2・3 歳児 | 西健康福祉センター        | 40   | 39  | 1   | 168  | 178   | △10  |
| 合計    |        |                  | 211  | 236 | △25 | 997  | 1,187 | △190 |



## (5) 通園支援

通園を利用するお子さんと保護者には、①サービス等利用計画の作成等の相談支援 ②通園のクラス担任と共に、保護者の相談に対応 ③福祉制度や就園、就学に関する情報の提供 ④併行通園しているお子さんの幼稚園・保育園等との連携 ⑤就学後の引継ぎ等の支援を行っています。幼稚園・保育園等への訪問は、通園のクラス担任を中心に必要があれば地区担当 SW も同行しました。

## (6) 地域支援

療育相談センターの利用者が日々通う学校、幼稚園・保育園等への巡回相談を行い、地域生活支援を実施しました。学校、幼稚園・保育園等の先生方を支援するコンサルテーション等の取り組みも行っています。また地域支援の一環として、横須賀市が主催する研修（別項参照 P10）や西武グループ幼稚園の職員研修に講師を派遣しました。

### i) 巡回相談（表 1-10、1-11）

お子さんの地域での生活支援の一環として診療課スタッフと協力し、幼稚園・保育園、学校等を訪問しました。1 件の訪問で複数のお子さんの相談を受けることもありました。幼稚園・保育園、学校等の先生方を支援するための巡回相談も今後さらに重要性を増していくと思われま。

表 1-10 巡回相談（保護者の同意による）訪問先別件数

|     | 幼稚園 | 保育園 | こども園 | 学校 | 家庭訪問 | その他 | 合計  | 巡回相談のべ件数 |
|-----|-----|-----|------|----|------|-----|-----|----------|
| 元年度 | 75  | 33  | 34   | 28 | 0    | 4   | 174 | 263      |
| 前年度 | 62  | 36  | 23   | 26 | 0    | 3   | 150 | 171      |
| 前年比 | 13  | △3  | 11   | 2  | 0    | 1   | 24  | 92       |

表 1-11 巡回相談（施設へのコンサルテーション）訪問先別件数

|     | 幼稚園 | 保育園 | こども園 | 学校 | 家庭訪問 | その他 | 合計 | 巡回相談のべ件数 |
|-----|-----|-----|------|----|------|-----|----|----------|
| 元年度 | 8   | 5   | 6    | 0  | 0    | 1   | 20 | 67       |
| 前年度 | 3   | 7   | 4    | 0  | 0    | 0   | 14 | 53       |
| 前年比 | 5   | △2  | 2    | 0  | 0    | 1   | 6  | 14       |

### ii) 健康福祉センターとの連絡会の開催

中央・北・南・西の各健康福祉センターと連携及び情報交換を目的に、5 月にそれぞれ連絡会を開催しました。また、4 健康福祉センター合同の連絡会を 2 月に開催しました。

### iii) 療育講演会の開催（別項参照 P10）

発達障害への理解を深める啓発活動として、療育講演会を8月に開催しました。

iv) 家族セミナーの開催

当センターの外来を利用している未就学児あるいは学齢児の保護者を対象とした「家族セミナー」を年4回、当センター内で開催しました。内容及び参加状況は以下の通りです。

| 内容                                    | 開催日    | 参加人数 |
|---------------------------------------|--------|------|
| 発達障害のあるお子さんへの対応の仕方いろいろ                | 10月23日 | 6人   |
| ことばをはぐくむコミュニケーション<br>～2、3語文からの会話に向けて～ | 11月15日 | 5人   |
| 不器用なお子さんの理解と支援                        | 12月18日 | 6人   |
| 発達支援を知り、適切に対応するには？                    | 1月29日  | 24人  |

v) 就学説明会の開催

5月に外来・年長児の保護者を対象に、就学説明会を教育委員会と共催しました。

vi) 発達支援コーディネーター研修への協力

地域生活支援課長が、10月16日に開催された横須賀市主催事業発達支援コーディネーター研修の講師として協力しました。

(7) ソーシャルワーカー研修等参加

- ・横須賀市児童相談所主催「子どもの虐待対応～虐待する親の心理～」(7人)
- ・小児精神神経学会主催「第121回小児精神神経学会」(3人)
- ・小児精神神経学会主催「子どもの学校生活にどうかかわるか？～発達障害医療が超える壁～」(2人)
- ・日本知的障害者福祉協会主催「全国知的障害関係施設長会議」(1人)
- ・特定非営利活動法人 かながわ障がいマネジメント従事者ネットワーク主催「相談支援従事者プレ研修」(計2回、のべ2人)
- ・特定非営利活動法人 かながわ障がいマネジメント従事者ネットワーク主催「相談支援従事者初任者研修」(計7回、のべ7人)
- ・横須賀市社会福祉協議会主催 施設部会施設職員研修会(1人)
- ・神奈川LD協会主催「発達障害の基本的理解と対応～診察室から見える「発達障害」とのお付き合い～」(2人)
- ・神奈川LD協会主催「本当はあまり知られていないダウン症のはなし」(1人)
- ・神奈川LD協会主催「子どものこころの理解と問題解決のワーク」(1人)
- ・神奈川県主催 医療的ケア児等支援者養成研修会(1人)
- ・横須賀市役所主催「皆で作ろう地域の暮らし」(2人)

## 2. 診療部門

### (1) 診療室

#### ① 外来診療

小児神経科・小児精神科医師 4 人、耳鼻いんこう科医師 2 人、リハビリテーション科医師 2 人、歯科医師（摂食外来担当）1 人、看護師 5 人で行いました。

表2-1

| 診療科目        | のべ対応人数 |       | 合計    |
|-------------|--------|-------|-------|
|             | 初診     | 再診    |       |
| 小児神経科・小児精神科 | 801    | 4,627 | 5,428 |
| 耳鼻いんこう科     | 2      | 43    | 45    |
| リハビリテーション科  | 0      | 235   | 235   |
| 小児歯科（摂食外来）  | 0      | 139   | 139   |
| 合計          | 803    | 5,044 | 5,847 |

診療科別の受診者数は表 2-1 のとおりです。

| 年齢    | 表 2-2 発達障害による診断内訳 |     |     |          |              |           |      |                |                 |      |           |       |      |      |      |      |         |              |          |        |     |
|-------|-------------------|-----|-----|----------|--------------|-----------|------|----------------|-----------------|------|-----------|-------|------|------|------|------|---------|--------------|----------|--------|-----|
|       | 年齢別件数             | なし  | 自閉症 | アスペルガー障害 | 特定不能の広汎性発達障害 | 注意欠陥多動性障害 | 学習障害 | 発達性言語遅滞（単なる遅れ） | 音韻障害（含む構音障害、吃音） | 排泄障害 | 発達性協調運動障害 | チック障害 | 愛着障害 | 行為障害 | 気分障害 | 適応障害 | 身体表現性障害 | トラウマ（含むPTSD） | 間歇性爆発性障害 | 不適切な養育 | その他 |
| 0 歳児  | 11                | 10  | 0   | 0        | 0            | 0         | 0    | 0              | 0               | 0    | 0         | 0     | 0    | 0    | 0    | 0    | 0       | 0            | 0        | 0      | 1   |
| 1 歳児  | 19                | 8   | 2   | 2        | 7            | 0         | 0    | 0              | 0               | 0    | 0         | 0     | 0    | 0    | 0    | 0    | 0       | 0            | 0        | 0      | 0   |
| 2 歳児  | 89                | 21  | 20  | 0        | 44           | 0         | 0    | 0              | 2               | 0    | 0         | 0     | 0    | 0    | 0    | 0    | 0       | 0            | 0        | 0      | 2   |
| 3 歳児  | 87                | 17  | 6   | 3        | 45           | 3         | 0    | 2              | 6               | 0    | 1         | 0     | 1    | 0    | 0    | 0    | 0       | 0            | 0        | 1      | 2   |
| 4 歳児  | 73                | 15  | 2   | 6        | 24           | 8         | 0    | 2              | 6               | 0    | 0         | 2     | 0    | 0    | 0    | 0    | 0       | 1            | 0        | 4      | 3   |
| 5 歳児  | 68                | 13  | 4   | 3        | 37           | 4         | 0    | 0              | 5               | 0    | 2         | 0     | 0    | 0    | 0    | 0    | 0       | 0            | 0        | 0      | 0   |
| 6 歳児  | 58                | 9   | 5   | 3        | 21           | 13        | 0    | 0              | 1               | 0    | 0         | 1     | 1    | 0    | 0    | 0    | 0       | 0            | 0        | 2      | 2   |
| 7 歳児  | 104               | 17  | 8   | 9        | 39           | 20        | 2    | 0              | 2               | 0    | 0         | 0     | 2    | 0    | 0    | 0    | 0       | 0            | 0        | 3      | 2   |
| 8 歳児  | 75                | 10  | 9   | 2        | 32           | 9         | 2    | 0              | 2               | 0    | 2         | 2     | 0    | 0    | 0    | 0    | 1       | 0            | 0        | 3      | 1   |
| 9 歳児  | 74                | 11  | 6   | 6        | 30           | 7         | 2    | 0              | 2               | 0    | 0         | 1     | 2    | 0    | 0    | 1    | 1       | 0            | 0        | 4      | 1   |
| 10 歳児 | 52                | 3   | 3   | 4        | 25           | 7         | 1    | 0              | 2               | 0    | 0         | 1     | 0    | 0    | 0    | 0    | 0       | 0            | 0        | 1      | 5   |
| 11 歳児 | 42                | 12  | 5   | 1        | 16           | 4         | 0    | 0              | 1               | 0    | 0         | 0     | 0    | 1    | 0    | 1    | 0       | 0            | 0        | 0      | 1   |
| 12 歳児 | 51                | 8   | 6   | 3        | 24           | 4         | 0    | 0              | 1               | 0    | 0         | 0     | 0    | 0    | 1    | 1    | 0       | 1            | 0        | 0      | 2   |
| 13 歳児 | 31                | 10  | 5   | 0        | 9            | 0         | 1    | 0              | 0               | 0    | 0         | 0     | 0    | 0    | 0    | 0    | 0       | 0            | 0        | 1      | 5   |
| 14 歳児 | 21                | 4   | 4   | 2        | 9            | 0         | 0    | 0              | 0               | 0    | 0         | 0     | 0    | 0    | 0    | 0    | 0       | 0            | 0        | 1      | 1   |
| 15 歳児 | 13                | 4   | 1   | 3        | 3            | 2         | 0    | 0              | 0               | 0    | 0         | 0     | 0    | 0    | 0    | 0    | 0       | 0            | 0        | 0      | 0   |
| 16 歳児 | 17                | 4   | 3   | 0        | 8            | 0         | 0    | 1              | 1               | 0    | 0         | 0     | 0    | 0    | 0    | 0    | 0       | 0            | 0        | 0      | 0   |
| 17 歳児 | 7                 | 1   | 1   | 0        | 4            | 0         | 0    | 0              | 0               | 0    | 0         | 0     | 0    | 0    | 0    | 1    | 0       | 0            | 0        | 0      | 0   |
| 合計    | 892               | 177 | 90  | 47       | 377          | 81        | 8    | 5              | 31              | 0    | 5         | 7     | 6    | 1    | 1    | 4    | 2       | 2            | 0        | 20     | 28  |

発達障害の年齢別内訳を表 2-2 に表します（診断名は重複します）。自閉症 10%、特定不能の広汎性発達障害 42%、アスペルガー障害 5%、注意欠陥多動性障害 9%、音韻障害 3%、発達性協調運動障害 0.6%などでした。

表 2-3 は、知的発達からみた診断内訳です。知的な遅れのない人は 38%、境界域は 31%、軽度の遅れは 21%、中等度の遅れは 6%、重度の遅れは 2%でした。

表 2-4 は、身体疾患からみた診断内訳です（診断名は重複します）。身体疾患がない人は 90%、運動発達遅滞（脳性麻痺以外）2%、てんかん 1%、脳性麻痺 1%、ダウン症候群 1%、先天奇形染色体異常（ダウン症以外）0.9%などでした。

表 2-3

| 知的障害 | 合計  | 無し（86 以上） | 境界域精神遅滞（85 ～ 71） | 軽度精神遅滞（70 ～ 51） | 中等度精神遅滞（50 ～ 36） | 重度精神遅滞（35 ～ 21） | 最重度精神遅滞（21 未満） | 不明 |
|------|-----|-----------|------------------|-----------------|------------------|-----------------|----------------|----|
| 件数   | 803 | 312       | 251              | 167             | 49               | 14              | 4              | 6  |

表 2-4

| 身体疾患 | 合計  | 無し  | てんかん | 脳性麻痺 | 運動発達遅滞（脳性麻痺以外） | 脳炎・脳症後遺症 | ダウン症候群 | 先天奇形染色体異常（ダウン症候群以外） | 先天性筋疾患 | 先天性心疾患 | 難聴・聴力障害 | その他 |
|------|-----|-----|------|------|----------------|----------|--------|---------------------|--------|--------|---------|-----|
| 件数   | 811 | 732 | 10   | 8    | 20             | 1        | 8      | 7                   | 0      | 2      | 4       | 19  |

## ② 検査業務

臨床検査技師非常勤 1 人で業務を行いました。

検査業務として、脳波および脳波聴力検査（ABR、ASSR）、検体検査を行いました。

脳波検査の対象は、センター受診者で、発達段階に応じて睡眠導入剤を使用し検査を行いました。

入眠しやすいように環境の調整や、保護者への指導を行いました。

令和元年度は脳波検査 5 件、ABR2 件、ASSR4 件でした。

通園児の健康診断の一環として、尿検査を 34 人行いました。

## ③ 看護業務

### i) 外来業務

診療介助を主としながら、診療の予約、他部門との連携や連絡調整、カルテの管理、診療器械の消毒・管理、診療材料、薬品の管理を行いました。

利用者の安全を考慮し、環境整備を行い事故防止に努めました。

臨床検査時の投薬や投薬後のお子さんの観察などを行い、検査が円滑に行われるよう配慮しました。その他に早期療育教室への参加、母子分離の面談でのお子さんの把握や観察を行いました。

また、らっこグループに「熱について」をテーマに 11 月 20 日勉強会を実施しました。6 人の参加がありました。

### ii) 通園業務

通園児の健康管理を中心に、保育中のけがや病気の対応、健康相談と情報提供を行いました。

通園児の中には、医療型児童発達支援センターに通う重症心身障害児（重度・重複の障害をもつお子さん）が複数単独通園しています。療育を行う上で、医療的ケアが必要不可欠であり、呼吸管理、

栄養管理、てんかん発作時の対応、感染予防、保護者の指導などの看護を行いました。

具体的には、下記の業務を行いました。

- ・登園時の健康チェック、バイタルサイン測定
- ・医療看護ケア（経管・胃腸栄養管理・喀痰吸引・排便・導尿・口腔ケアなど）
- ・療育中のけが対応
- ・病児対応
- ・投薬（内服薬、坐薬、軟膏）
- ・身体測定の実施
- ・健康診断（内科・歯科・耳鼻いんこう科・尿検査）
- ・予防接種状況の把握
- ・感染予防のための保護者への情報提供
- ・健康相談
- ・行事への参加（水治療・遠足・運動会・家族参観など）
- ・保護者勉強会12月6日 「子どもの健康管理」をテーマに勉強会を実施しました。9人の参加がありました。

#### ④ 地域対応

センター所長が、9月9日に開催された横須賀市主催事業発達支援コーディネーター研修にて「発達障害の理解と対応のコツ」と題し、基調講演講師として協力しました。

#### ⑤ 研修参加

i) 医師（常勤のみ、主なもの）

- ・第121、122回日本小児精神神経学会（1人）
- ・第61回日本小児神経学会学術集会（1人）
- ・社会福祉法人青い鳥 管理職研修（1人、年間4回）

ii) 看護師

- ・子どもの福祉用具展実行委員会主催第18回子どもの福祉用具展 キッズフェスタ2019(1人)
- ・社会福祉法人青い鳥主催Ns専門部会(1人)
- ・汐入援助者グループ主催第4回汐入援助者グループ「援助者の自信とやさしさを育てるメタ認知トレーニング(人)
- ・日本小児精神神経学会主催日本小児精神神経学会第121回大会(1人)
- ・福祉のまちづくりを進める市民集会主催第25回福祉のまちづくりを進める市民集会「横須賀における、てんかんの治療について」(1人)
- ・社会福祉法人青い鳥主催中堅職員研修(1人)
- ・神奈川県立こども医療センターこどものこころのケアネットワーク事業主催令和元年度児童思春期精神科セミナー子どもへの病名・障がい告知を考える(2人)
- ・神奈川県看護協会主催令和元年度小児訪問看護・重症心身障がい児者看護研究会公開講座(1人)
- ・Epilepsy forum in yokosuka 主催「けいれんの初期対応と薬剤選択」「脳神経外科診療で遭遇するてんかんの課題」(1人)
- ・ADDS 主催エビデンスに基づいて保護者と取り組む発達障碍児の早期療育モデル全国実装PJ 最終報告シンポジウム(1人)

## (2) 心理

常勤 5 人、非常勤 1 人、計 6 人で業務を行いました。

### ①外来業務

表 2-5 心理評価、個別指導、教室の月別のべ人数

| 月   | 心理評価 |      | 個別指導  | 教室    | 合計    |        |
|-----|------|------|-------|-------|-------|--------|
|     | 初診前  | 初診後* | のべ人数* | のべ人数* | 計(※1) | 総計(※2) |
| 4月  | 48   | 9    | 91    | 73    | 173   | 221    |
| 5月  | 41   | 23   | 103   | 77    | 203   | 244    |
| 6月  | 28   | 65   | 89    | 84    | 238   | 266    |
| 7月  | 40   | 41   | 119   | 51    | 211   | 251    |
| 8月  | 42   | 43   | 92    | 0     | 135   | 177    |
| 9月  | 49   | 19   | 124   | 69    | 212   | 261    |
| 10月 | 43   | 16   | 122   | 90    | 228   | 271    |
| 11月 | 50   | 6    | 106   | 78    | 190   | 240    |
| 12月 | 42   | 11   | 139   | 57    | 207   | 249    |
| 1月  | 35   | 12   | 109   | 82    | 203   | 238    |
| 2月  | 35   | 10   | 104   | 79    | 193   | 228    |
| 3月  | 52   | 8    | 130   | 66    | 204   | 256    |
| 合計  | 505  | 263  | 1,328 | 806   | 2,397 | 2,902  |

※1 初診後に実施したもの(\*印の項目)

※2 初診前の心理評価を加えた数

表 2-6 個別指導児の年齢別内訳

| 年齢    | 人数  |
|-------|-----|
| 0歳児   | 8   |
| 1歳児   | 13  |
| 2歳児   | 53  |
| 3歳児   | 125 |
| 4歳児   | 129 |
| 5歳児   | 198 |
| 小1    | 13  |
| 小2    | 11  |
| 小3    | 14  |
| 小4    | 8   |
| 小5    | 13  |
| 小6    | 8   |
| 中学生以上 | 13  |
| 合計    | 606 |

表 2-7 個別指導児の疾患別内訳

| 疾患        | 人数  |
|-----------|-----|
| 自閉症       | 93  |
| 広汎性発達障害   | 322 |
| 注意欠陥多動性障害 | 17  |
| アスペルガー障害  | 31  |
| 学習障害      | 0   |
| てんかん      | 1   |
| ダウン症候群    | 9   |
| 脳性麻痺      | 3   |
| その他の染色体異常 | 5   |
| 知的障害      | 65  |
| 精神運動発達遅滞  | 25  |
| 要養護(虐待等)  | 0   |
| 標準発達      | 1   |
| 未確定       | 0   |
| その他       | 34  |
| 合計        | 606 |

#### i) 心理評価

心理評価を 768 件実施しました。昨年度（716 件）と比較すると 7.3%増加しています。

当センターでは医師の初診に先立って心理評価（発達検査・知能検査）を実施しています。新規ケースのうち、SW によるインテークの日から遡って 1 年以内に他機関で発達検査・知能検査を実施していたケース、リハビリ希望で他の医療機関からの紹介状があるケース等を除いた 505 件に対して、初診前の心理評価を行いました。

医師の診察後、心理評価を実施した件数は 263 件でした。このうち、10 件は当センターでの初めての評価、253 件は再評価でした（表 2-5）。

#### ii) 個別指導

評価会議において、心理士による定期的な指導やフォローが必要とされたお子さんに実施しました。お子さんとその家族に対し、2 週間～数か月に 1 回の頻度で行いました。内容は、初期療育、お子さんの行動を理解するための情報の提供、具体的なお子さんの行動への対応や工夫の仕方の助言、家族の心理的なサポートが中心となっています。個別指導ののべ人数は 1,328 人でした。対象となったお子さんは計 606 人、就学前のお子さんが 86.8 %、小学生以上のお子さんが 13.2%でした（表 2-6～7）。

#### iii) 早期療育教室・療育教室

早期療育教室・療育教室に 146 回参加し、その後コンサルテーションをしました。対象となったお子さんののべ人数は 806 人でした。

#### iv) 療育教室：かもめグループ（別項参照 P32）

月 2 回、7 人のお子さんを対象に心理士 2 人、作業療法士 1 人、言語聴覚士 1 人でグループの運営を行いました。

### ②通園業務

#### i) コンサルテーション

17 クラスに対して数回ずつ、計 60 回行いました。

#### ii) 保護者勉強会（別項参照 P40）

7 月 18 日に「子どもの育ちをどうとらえるか」というテーマで行いました。18 人の参加がありました。

### ③地域対応

#### i) 巡回相談

SW と心理士が現地に赴き、お子さんの観察及びカンファレンスを行う巡回相談を、幼稚園・保育園に対して 60 回、公立小・中学校に対して 17 回、その他 5 回実施しました。

直接来所いただいた上で関係機関とのカンファレンスを 2 回行いました。電話での相談は 0 件でした。

#### ii) 継続巡回相談

継続巡回相談に、1 園×2 回、のべ 2 人が参加しました。

#### iii) 講演・講義（別項参照 P16）

10 月 23 日に、家族セミナーにて、「発達障害のあるお子さんへの対応の仕方いろいろ」というテーマで講演を行いました。6 人の参加がありました。

10月16日に、発達支援コーディネーター研修にて、作業療法士、言語聴覚士とともに講演を行いました。テーマは「発達障害の理解と対応」でした。

その他、以下の講演・講義を行いました。

- ・ 特別支援教育士資格認定協会主催 SENS 養成セミナー「アセスメントの総合的解釈」
- ・ 日本LD学会主催 LD・ADHD等心理的疑似体験プログラム講師認定講習会
- ・ 横須賀市私立幼稚園協会主催 研修会「発達障害の子どもの理解と対応～療育センターの心理からお伝えできること」
- ・ 西武学園グループ幼稚園職員研修会「発達障害の理解と対応」

#### iv) 保育所等訪問支援事業準備プロジェクト

- ・ 心理から2名参加しました。詳細は診療課(P10)を参照

#### v) その他

- ・ 療育手帳：申請及び更新のために、読み替えの資料を86件作成しました。
- ・ 他機関へ情報提供：保護者、幼稚園・保育園、学校、教育委員会等に報告書を278件作成しました。
- ・ 教育委員会関連の委員会・連絡会(就学教育支援委員会、特別支援教育コーディネーター連絡会、相談支援チーム連絡会)に委員・オブザーバーとして、計22回、のべ29人が参加しました。

#### ④心理士研修参加

- ・ はなす場こむぎ主催 発達障害をもつ人たちによる講座(当事者会)(1人)
- ・ まめの木クリニック主催 ペアレントトレーニングリーダー養成基礎研修(1人)
- ・ 横須賀市教育委員会主催 令和元年度第6回支援教育研修講座(2人)
- ・ 児童相談所主催 研修会「子どもを虐待する親の心理について」(3人)
- ・ 社会福祉法人青い鳥主催 心理専門部会(全3回、14人)
- ・ 社会福祉法人青い鳥主催 心理専門部会・主任会(全3回、のべ3人)
- ・ 社会福祉法人青い鳥主催 中堅職員研修(1人)
- ・ 社会福祉法人青い鳥主催 発達障害研究会 in Yokohama(2人)
- ・ 神奈川LD協会主催 第8回わらしべ実践交流集会(1人)
- ・ 神奈川県臨床心理士会主催 神奈川県臨床心理士会第2回研修会(1人)
- ・ 神奈川県臨床心理士会主催 全体研修会「精神科医と心理職の棲み分けと連携」(2人)
- ・ 横須賀市療育相談センター主催 センター異動者・初任者研修 SWの話(1人)
- ・ 日本小児精神神経学会主催 日本小児精神神経学会第121回大会(1人)
- ・ 日本心理臨床学会主催 日本心理臨床学会第38回大会(1人)
- ・ 日本臨床心理士資格認定協会主催 心の健康・文化フォーラム「子どもの心を育み培う地域文化力を考える」(1人)
- ・ 臨床心理士子育て支援合同委員会主催 第15回子育て支援講座「ネット社会と子育て支援」(1人)



### (3) 理学療法 (PT)

常勤 2 人で業務を行いました。

#### ①外来業務

小児精神・神経科及びリハビリテーション科医師の指示のもと、お子さんの障害や運動発達の状態に応じて、理学療法の目標を設定し、指導を行いました。運動遊びを通して、お子さんの運動発達を促しながら、自宅での遊び方の工夫なども伝えています。また、臥位や座位の姿勢保持が困難なお子さんに対しては、お子さんの姿勢の評価を行った上で、保護者の方への姿勢ケアの指導や、必要に応じて、自宅で使用する姿勢保持具の作製や相談も行いました。

#### i) 利用者の状況

年間のべ数は 1,074 人でした。理学療法の初回評価を 21 人に対して行い、個別指導及び経過観察として、週 1 回から月 1 回、月 2 回、2～3 ヶ月に 1 回の頻度で、理学療法を実施しました。初回評価、個別指導の月別のべ人数、年齢別内訳及び疾患別内訳は、以下のとおりです(表 2-8～10)。

表 2-8 初回評価、個別指導の月別のべ人数

|      | 初回評価<br>(人) | 個別指導<br>(人) | 計<br>(人) |
|------|-------------|-------------|----------|
| 4 月  | 1           | 90          | 91       |
| 5 月  | 1           | 79          | 80       |
| 6 月  | 2           | 88          | 90       |
| 7 月  | 2           | 94          | 96       |
| 8 月  | 2           | 82          | 84       |
| 9 月  | 2           | 82          | 84       |
| 10 月 | 1           | 92          | 93       |
| 11 月 | 2           | 88          | 90       |
| 12 月 | 0           | 86          | 86       |
| 1 月  | 3           | 72          | 75       |
| 2 月  | 2           | 100         | 102      |
| 3 月  | 3           | 100         | 103      |
| 合計   | 21          | 1,053       | 1,074    |

表 2-9 年齢別内訳

| 年齢    | 人数 |
|-------|----|
| 0 歳児  | 8  |
| 1 歳児  | 15 |
| 2 歳児  | 11 |
| 3 歳児  | 10 |
| 4 歳児  | 4  |
| 5 歳児  | 8  |
| 小 1   | 7  |
| 小 2   | 3  |
| 小 3   | 3  |
| 小 4   | 3  |
| 小 5   | 2  |
| 小 6   | 7  |
| 中学生以上 | 6  |
| 合計    | 87 |

表 2-10 疾患別内訳

| 疾患        | 人数 |
|-----------|----|
| 自閉症       | 0  |
| 広汎性発達障害   | 3  |
| 注意欠陥多動性障害 | 0  |
| アスペルガー障害  | 0  |
| 学習障害      | 0  |
| てんかん      | 0  |
| ダウン症候群    | 6  |
| 脳性麻痺      | 20 |
| その他の染色体異常 | 10 |
| 知的障害      | 4  |
| 精神運動発達遅滞  | 29 |
| 要養護(虐待等)  | 0  |
| 標準発達      | 0  |
| 未確定       | 0  |
| その他       | 15 |
| 合計        | 87 |

#### ii) 摂食外来(別項参照 P30)

月 2 回、のべ 139 人の摂食指導を行いました。歯科医師を中心に作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、看護師と共に摂食指導を行いました。

#### iii) 補装具外来(別項参照 P31)

月 3 回、のべ 235 人に対してリハビリテーション科医師の指示のもと、作業療法士と共に補装具の作成及び修理を行いました。

iv) 早期療育教室

早期療育教室に参加し、ご家族との相談、職員への助言や指導を行いました。

**②通園業務**

i) 姿勢ケアの指導

通園児童の臥位や座位における姿勢ケアについて、通園職員への助言や指導を行いました。必要に応じて、通園施設内で使用する姿勢保持具の作製を行いました。

ii) 摂食指導

給食に同席し、摂食指導および食形態の検討を行いました。

iii) 保護者勉強会（別項参照 P40）

10 月 25 日「お母さん・お父さんの身体にやさしいお子さんの関わり方」というテーマで勉強会を実施しました。8 人の参加がありました。

iv) コンサルテーション

2 クラス、計 5 回のコンサルテーションを行いました。

**③地域対応**

i) 幼稚園・保育園・学校等との連携

保護者や幼稚園・保育園、学校からの要請や必要に応じ、幼稚園・保育園、学校等を訪問し、スタッフへの助言や指導、及び集団の中での様子や行動観察をすると共に、幼稚園・保育園、学校の先生との情報交換を行いました。幼稚園・保育園 6 回、小学校に 3 回、特別支援学校へ 2 回、来所相談を 2 回、電話相談を 2 回行いました。

**④理学療法士研修参加**

- ・子どもの福祉用具展実行委員会主催 第 18 回子どもの福祉用具展(1 人)
- ・神奈川県理学療法士会主催 『安全で楽しいプール介助 ～運動障害児へのプール介助について学び実技を習得する～』(1 人)
- ・児童相談所主催 子どもを虐待する親の心理について(2 人)
- ・神奈川県理学療法士会主催 発達障害領域講習会『脳性麻痺児・ダウン症児に対する理学療法入門～運動発達実習・治療実技を中心に～』(年間 2 回、のべ 2 人)
- ・社会福祉法人青い鳥 理学療法・作業療法専門部会(年間 7 回、のべ 9 人)

## (4) 作業療法 (OT)

常勤3人で業務を行いました。

### ①外来業務

小児精神・神経科及びリハビリテーション科医師の指示のもと、一人ひとりの障害の状況や要望等を考慮したリハビリテーション目標を設定し指導を行いました。遊びを中心としたいろいろな活動を通して、手の機能や認知面等の発達を促し、日常生活に必要な力をつけるための指導・援助を行いました。また、食事・衣類の着脱・遊び等の日常生活が容易に行えるように、自助具や補装具等の使用・作製、住宅改修についての相談を行いました。

#### i) 利用者の状況

年間のべ数は 1,348 人でした。のべ 58 人の作業療法評価（上肢・手指の操作機能評価、発達スクリーニング検査）などを行い、お子さんへの支援及び相談を実施しました。個別指導及び経過観察として週1回から月1回、2～3ヶ月1回の頻度で、のべ 1,290 人の個別指導を行いました。評価・個別指導の月別のべ人数、年齢別内訳及び疾患別内訳は以下のとおりです(表 2-11～13)。

表 2-11 月別のべ人数

|     | 初回評価<br>(人) | 個別指導<br>(人) | 計     |
|-----|-------------|-------------|-------|
| 4月  | 5           | 82          | 87    |
| 5月  | 5           | 85          | 90    |
| 6月  | 6           | 93          | 99    |
| 7月  | 4           | 116         | 120   |
| 8月  | 3           | 108         | 111   |
| 9月  | 3           | 91          | 94    |
| 10月 | 5           | 112         | 117   |
| 11月 | 5           | 115         | 120   |
| 12月 | 5           | 113         | 118   |
| 1月  | 7           | 122         | 129   |
| 2月  | 4           | 116         | 120   |
| 3月  | 6           | 137         | 143   |
| 合計  | 58          | 1,290       | 1,348 |

表 2-12 年齢別内訳

| 疾患    | 人数  |
|-------|-----|
| 0歳児   | 2   |
| 1歳児   | 5   |
| 2歳児   | 10  |
| 3歳児   | 23  |
| 4歳児   | 32  |
| 5歳児   | 52  |
| 小1    | 13  |
| 小2    | 8   |
| 小3    | 3   |
| 小4    | 3   |
| 小5    | 3   |
| 小6    | 3   |
| 中学生以上 | 0   |
| 合計    | 157 |

表 2-13 疾患別内訳

| 年齢        | 人数  |
|-----------|-----|
| 自閉症       | 10  |
| 広汎性発達障害   | 41  |
| 注意欠陥多動性障害 | 9   |
| アスペルガー障害  | 3   |
| 学習障害      | 0   |
| てんかん      | 1   |
| ダウン症候群    | 8   |
| 脳性麻痺      | 12  |
| その他染色体異常  | 4   |
| 知的障害      | 8   |
| 精神運動発達遅滞  | 30  |
| 要養護(虐待等)  | 0   |
| 標準発達      | 1   |
| 未確定       | 0   |
| その他       | 30  |
| 合計        | 157 |

#### ii) 摂食外来（別項参照 P30）

月に2回の摂食外来に作業療法士1人が参加し、歯科医師、理学療法士、言語聴覚士、管理栄養士、看護師と共に、のべ 139 人の摂食指導を行いました。

#### iii) 補装具外来（別項参照 P31）

月3回の補装具外来で、リハビリテーション科医師の指示のもと、理学療法士と共に補装具の作製及び修理を行いました。

iv) 療育教室：かもめグループ（別項参照P32）

月2回、7人のお子さんを対象に作業療法士1人、言語聴覚士1人、心理士2人でグループの運営を行いました。

## ② 通園業務

i) 姿勢ケアの指導

通園児童の座位や臥位の姿勢ケアについて通園職員への指導・援助を行いました。

ii) 摂食指導

給食時に摂食指導を行いました。

iii) 保護者勉強会（別項参照P40）

9月26日「楽しく遊ぼう ～遊びのヒントを考える～」というテーマで勉強会を実施しました。20人の参加がありました。

iv) コンサルテーション

10クラス、計34回のコンサルテーションを行いました。

## ③ 地域対応

i) 幼稚園・保育園、学校等巡回相談

保護者、幼稚園・保育園、学校からの要請や必要に応じ、幼稚園・保育園、学校などを訪問し、送り、助言や指導を行い、連携を図りました。幼稚園・保育園8回、小学校に4回、その他に3回、特別支援学校へ3回、来所相談を5回、電話相談を0回行いました。

ii) 講演

発達支援コーディネーター研修「不器用なお子さんの理解と支援」にて、10月16日に心理士、言語聴覚士とともに講演を行いました。

iii) 保育所等訪問支援事業準備プロジェクト

- ・作業療法士から1名参加しました。詳細は診療課(P10)を参照

## ④ 作業療法士研修参加

- ・社会福祉法人青い鳥主催PT・OT専門部会(計7回のべ17人)
- ・神奈川県立こども医療センターこどものこころのケアネットワーク事業主催 令和元年度児童思春精神科セミナー子どもへの病名・障がい告知を考える(1人)
- ・横浜こどもホタテの会主催読み書き支援(学習支援の体系化を目指して)(1人)
- ・発達協会主催特別な関わりが必要な子への保育・幼児教育～子どもへの合理的配慮を含めて～(1人)
- ・オフィスサニー主催発達が気になる子への「生活動作の教え方」セミナー(1人)
- ・オフィスサニー主催発達が気になる子への「読み書き指導」セミナー(1人)
- ・社会福祉法人青い鳥主催発達障害研究会 in Yokohama(1人)
- ・神奈川県作業療法士会主催厚生労働省指定臨床実習指導者講習会(1人)
- ・児童相談所主催子どもを虐待する親の心理について(2人)

## ⑤ 実習指導

神奈川県立保健福祉大学リハビリテーション学科作業療法学専攻3年生の評価学実習Ⅱ(4週間)の学生1名に対し、指導を行いました。

## (5) 言語聴覚療法 (ST)

常勤 2 人で業務を行いました。

### ① 外来業務

主に言葉の遅れや発音の問題、吃音、難聴などのあるお子さんに対し、個々の障害の状況や要望などを考慮した目標を設定し、相談や個別指導を行いました。必要に応じ、聴力検査を実施しました。

#### i) 利用者の状況

初回評価、個別指導児、聴力検査の年間のべ人数は 1,085 人でした。初回評価として、のべ 53 人の言語検査などを行い、評価及び相談を実施しました。個別指導及び経過観察として、週 1 回から月 1 回、2～3 ヶ月に 1 回の頻度で、のべ 657 人に言語聴覚療法を行いました。

初回評価、個別指導児の月別のべ人数、及び初回評価、個別指導児の疾患別内訳と年齢別内訳は、以下のとおりです (表 2-14～16)。聴力検査の年間のべ人数は、375 人でした。

#### ii) 耳鼻科外来

耳鼻いんこう科医師による月 2 回の耳鼻科外来に立ち会いました。必要に応じて、聴力検査、ティンパノメトリー (鼓膜の動きの程度を調べる検査) を実施しました。

#### iii) 聴力検査

月 4 回聴力検査の実施日を設定し、外来利用児に聴力検査を実施しました。また外来利用児のうち年長児の希望者を対象に、72 人に再度聴力検査を実施しました。

表 2-14 初回評価、個別指導児、聴力検査実施児の月別のべ人数

|      | 初回評価<br>(人) | 個別指導<br>(人) | 聴力検査<br>(人) | 計<br>(人) |
|------|-------------|-------------|-------------|----------|
| 4 月  | 5           | 59          | 15          | 79       |
| 5 月  | 7           | 33          | 31          | 71       |
| 6 月  | 5           | 38          | 52          | 95       |
| 7 月  | 6           | 49          | 59          | 114      |
| 8 月  | 5           | 53          | 40          | 98       |
| 9 月  | 2           | 52          | 29          | 83       |
| 10 月 | 6           | 63          | 22          | 91       |
| 11 月 | 6           | 74          | 19          | 99       |
| 12 月 | 3           | 58          | 28          | 89       |
| 1 月  | 3           | 60          | 21          | 84       |
| 2 月  | 2           | 58          | 26          | 86       |
| 3 月  | 3           | 60          | 33          | 96       |
| 合計   | 53          | 657         | 375         | 1,085    |

表 2-15 初回評価、個別指導児の年齢別内訳

| 疾患    | 人数 |
|-------|----|
| 0 歳児  | 1  |
| 1 歳児  | 0  |
| 2 歳児  | 1  |
| 3 歳児  | 7  |
| 4 歳児  | 21 |
| 5 歳児  | 26 |
| 小 1   | 9  |
| 小 2   | 6  |
| 小 3   | 3  |
| 小 4   | 5  |
| 小 5   | 0  |
| 小 6   | 1  |
| 中学生以上 | 2  |
| 合計    | 82 |

表 2-16 初回評価、個別指導児の疾患別内訳

| 年齢        | 人数 |
|-----------|----|
| 自閉症       | 2  |
| 広汎性発達障害   | 21 |
| 注意欠陥多動性障害 | 3  |
| アスペルガー障害  | 1  |
| 学習障害      | 0  |
| てんかん      | 0  |
| ダウン症候群    | 2  |
| 脳性麻痺      | 2  |
| その他の染色体異常 | 1  |
| 知的障害      | 7  |
| 精神運動発達遅滞  | 6  |
| 要養護(虐待等)  | 0  |
| 標準発達      | 2  |
| 未確定       | 0  |
| その他       | 35 |
| 合計        | 82 |

## iv) 摂食外来（別項参照 P30）

月 2 回の摂食外来に言語聴覚士 1 人が参加し、歯科医師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、看護師と共に、のべ 139 人の摂食指導を行いました。

## v) 療育教室：かもめグループ(別項参照 P32)

月 2 回、7 人のお子さんを対象に作業療法士 1 人、言語聴覚士 1 人、心理士 2 人でグループの運営を行いました。

## ②通園業務

## i) 聴力検査

年長児の希望者を対象に、37 人に聴力検査を実施しました。

## ii) 摂食指導

給食時に摂食指導及び給食の食形態の検討を行いました。

## iii) 保護者勉強会（別項参照 P40）

「コミュニケーションとことば」というテーマで 11 月 21 日に勉強会を実施しました。19 人の参加がありました。

## iv) コンサルテーション

クラスへのコンサルテーションをのべ 11 回行いました。

## ③地域対応

## i) 市立ろう学校・特別支援学校・市立小学校・ことばの教室

評価を行ったお子さんや個別指導を実施しているお子さんの通学する学校の先生と連携を図るためのべ 9 校の巡回や来所相談を行い、情報交換や文書での申し送りを行いました。

## ii) 幼稚園・保育園

評価を行ったお子さんや、個別指導を実施しているお子さんの集団の中での様子や行動観察、また通園する幼稚園・保育園の先生との連携のため、1園の巡回を行い、情報交換や文書での申し送りを行いました。

## iii) 講演(別項参照 P16)

家族セミナーにて、11月15日に「ことばを育むコミュニケーション」について講演を行いました。5人の参加がありました。

## iv) 講演

発達支援コーディネーター研修 公開講座「支援の具体を考える① やり取りの基礎となる力を育む工夫について」にて、10月16日に心理士、作業療法士とともに講演を行いました。

## v) 派遣事業

1月26日に横須賀市総合福祉会館にて行われた横須賀市立ろう学校主催の「こどものためのきこえとことばの相談会」に相談員として派遣され、言葉や聞こえに関する相談業務を行いました。

## ④言語聴覚士研修参加

- ・社会福祉法人青い鳥主催 ST 専門部会(年間5回 のべ10人)
- ・臨床の知を考える会主催 聴覚障害児の聴覚活用と聴覚学習3(1人)
- ・日本マカトン協会主催 マカトン法ワークショップ基礎1(1人)
- ・日本マカトン協会主催 マカトン法ワークショップ基礎2(1人)
- ・言語発達遅滞研究会主催 国リハ式<S-S法>検査法講習(1人)
- ・横須賀市ろう学校主催聴覚障がい理解研修会 聞こえの理解と、聞こえにくさのある児童生徒に対する指導・支援の実際(2人)
- ・補聴&聴覚活用研究会主催補聴と聴覚活用を語るサマーフォーラム2019in 横浜(1人)
- ・日本耳鼻咽喉科学会神奈川県地方部会主催 軟骨電動補聴器について(1人)
- ・神奈川 LD 協会主催 ことばとコミュニケーションの発達と発達性ディスレクシアの理解(1人)
- ・日本吃音・流暢性障害学会主催 日本吃音・流暢性障害学会 第7回大会(2人)
- ・臨床の知を考える会主催宿泊研修 研修のまとめ(1人)
- ・日本吃音・流暢性障害学会主催ポストコンgresセミナー 「学齢期吃音の支援・指導3」(1人)
- ・NPO 法人よこはま言友会主催 親子きつおん交流会(1人)
- ・NPO 法人よこはま言友会主催 吃音フォーラム in 上大岡(1人)
- ・発達教育実践研究会主催 わたし研究から子ども理解へ(1人)
- ・東京都言語聴覚士協会主催 第5回国都協働するSTのための講座(1人)
- ・東京都言語聴覚士会、埼玉県言語聴覚士会共催主催 聴覚障がい児・盲ろう児の早期発達支援～関係発達論からの提言(1人)
- ・言語発達障害研究会主催症例報告会(1人)
- ・児童相談所主催子どもを虐待する親の心理について(2人)

## (6) 摂食外来

歯科医師を中心に理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、看護師と共に摂食機能や食事の進め方についてアドバイスや定期的な指導を行いました。

月に2回のべ139人の摂食指導を行いました。月別のべ人数、及び指導児の年齢別内訳、疾患別内訳は以下のとおりです(表2-17～19)。

月に1回、通園の給食の時間に歯科医師による巡回を行い、担任にアドバイスをしました。

表2-17 月別のべ人数

|     | 人数  |
|-----|-----|
| 4月  | 13  |
| 5月  | 12  |
| 6月  | 12  |
| 7月  | 9   |
| 8月  | 14  |
| 9月  | 13  |
| 10月 | 9   |
| 11月 | 13  |
| 12月 | 11  |
| 1月  | 11  |
| 2月  | 13  |
| 3月  | 9   |
| 合計  | 139 |

表2-18 年齢別内訳

| 年齢   | 人数 |
|------|----|
| 0歳児  | 6  |
| 1歳児  | 7  |
| 2歳児  | 11 |
| 3歳児  | 13 |
| 4歳児  | 11 |
| 5歳児  | 10 |
| 6歳児  | 10 |
| 7歳児  | 0  |
| 8歳児  | 0  |
| 9歳児  | 0  |
| 10歳児 | 1  |
| 11歳児 | 0  |
| 12歳児 | 0  |
| 合計   | 69 |

表2-19 疾患別内訳

| 疾患        | 人数 |
|-----------|----|
| 自閉症       | 2  |
| 広汎性発達障害   | 6  |
| 注意欠陥多動障害  | 0  |
| アスペルガー障害  | 0  |
| 学習障害      | 0  |
| てんかん      | 0  |
| ダウン症候群    | 13 |
| 脳性麻痺      | 7  |
| その他の染色体異常 | 5  |
| 知的障害      | 3  |
| 精神運動発達遅滞  | 20 |
| 要養護（虐待等）  | 0  |
| 標準発達      | 0  |
| 未確定       | 0  |
| その他       | 13 |
| 合計        | 69 |



## (7) 補装具外来

リハビリテーション科医師の指示のもと、理学療法士、作業療法士、補装具業者が協力し、補装具の評価、作製、修理を行いました。お子さんと保護者の方の必要性や要望に応じて、医師、理学療法士、作業療法士、補装具業者で相談・検討を行い、お子さん一人ひとりに合わせた補装具の作製および修理を行いました。

補装具外来は月に3回行われ、のべ235人が受診しました。月別のべ人数、年齢別内訳、疾患別内訳、補装具作製および修理件数の内訳は下表のとおりです(表2-20～23)。

表2-20 月別のべ人数

|     | 人数  |
|-----|-----|
| 4月  | 26  |
| 5月  | 14  |
| 6月  | 21  |
| 7月  | 20  |
| 8月  | 19  |
| 9月  | 16  |
| 10月 | 14  |
| 11月 | 17  |
| 12月 | 12  |
| 1月  | 15  |
| 2月  | 33  |
| 3月  | 28  |
| 合計  | 235 |

表2-21 年齢別内訳

| 年齢    | 人数 |
|-------|----|
| 0歳児   | 0  |
| 1歳児   | 6  |
| 2歳児   | 8  |
| 3歳児   | 10 |
| 4歳児   | 5  |
| 5歳児   | 10 |
| 6歳児   | 6  |
| 7歳児   | 6  |
| 8歳児   | 5  |
| 9歳児   | 5  |
| 10歳児  | 3  |
| 11歳児  | 3  |
| 12歳以上 | 3  |
| 合計    | 70 |

表2-22 疾患別内訳

| 疾患        | 人数 |
|-----------|----|
| 自閉症       | 0  |
| 広汎性発達障害   | 4  |
| 注意欠陥多動障害  | 0  |
| アスペルガー障害  | 0  |
| 学習障害      | 0  |
| てんかん      | 0  |
| ダウン症      | 3  |
| 脳性麻痺      | 15 |
| その他の染色体異常 | 7  |
| 知的障害      | 6  |
| 精神運動発達遅滞  | 26 |
| 要養護(虐待等)  | 0  |
| 標準発達      | 0  |
| 未確定       | 0  |
| その他       | 10 |
| 合計        | 71 |

表2-23 補装具作製および修理件数の内訳

| 補装具名       | 件数  |
|------------|-----|
| 車椅子・バギー    | 14  |
| 座位保持装置付車椅子 | 0   |
| 座位保持装置     | 14  |
| 下肢装具       | 25  |
| 足底板        | 18  |
| カーシート      | 6   |
| その他        | 7   |
| 修理         | 40  |
| 合計         | 124 |

## (8) かもめグループ

コミュニケーションの苦手さ、落ち着きのなさなどのために幼稚園や保育園などの集団場面で困難さを持つ年長のお子さんのためのグループとして、心理士 2 人、言語聴覚士 1 人、作業療法士 1 人で運営を行いました。対象は次年度就学をする 7 人のお子さんでした。所属は幼稚園 5 人、保育園 2 人でした。

月に 2 回グループ指導を行い、お子さん同士の少人数のグループの中で、ゲームや話し合い等の経験を通して他児への意識を高め、他児と共に活動を楽しむための基礎づくりを行いました。また、丁寧なサポートの中で自分の力を発揮したり、他児から認められる経験を通して自信や達成感を重ねることを目的に指導を行いました。

保護者に対しては、小集団でのお子さんの様子を通してお子さんの特徴を理解し、対応の工夫を考え就学のサポートを行いました。

就学先は小学校通常の学級 4 人、特別支援学級 3 人でした。月別回数、参加のべ人数内訳は以下のとおりです(表 2-24)。

表 2-24 月別のグループ開催回数、参加のべ人数

|      | 回数 | 人数 |
|------|----|----|
| 6 月  | 1  | 6  |
| 7 月  | 2  | 10 |
| 8 月  | 1  | 6  |
| 9 月  | 2  | 12 |
| 10 月 | 2  | 12 |
| 11 月 | 2  | 11 |
| 12 月 | 2  | 9  |
| 1 月  | 2  | 9  |
| 2 月  | 1  | 5  |
| 3 月  | 1  | 6  |
| 合計   | 16 | 86 |

※6 月から開催

## (9) すずらんグループ

精研式『ペアレント・トレーニングプログラム』を基礎にした保護者のグループです。

保護者とお子さんが、より良いコミュニケーションで家庭生活が送れるようにすることを目的としています。お子さんにわかりやすい、具体的な対応を身につけることで、親と子が、ともに日常生活をより穏やかに送れるようにサポートするためのものです。

前期(4～9月)、後期(10～3月)の2グループ実施しました。ADHDやASDの特性のある小学校低学年から高学年のお子さんを持つ9人(前期6人、後期3人)の保護者を対象としました。心理士3人、SW2人で運営を行いました。

各グループ、概ね月2回、10回のセッションで行いました。月別回数、参加のべ人数内訳は以下の通りです。(表2-25)

表2-25 月別のグループ開催回数、参加のべ人数

|     | 回数 | 人数 |
|-----|----|----|
| 4月  | 2  | 11 |
| 5月  | 2  | 11 |
| 6月  | 2  | 12 |
| 7月  | 2  | 11 |
| 8月  | 0  | 0  |
| 9月  | 2  | 11 |
| 10月 | 2  | 6  |
| 11月 | 2  | 5  |
| 12月 | 1  | 2  |
| 1月  | 2  | 4  |
| 2月  | 2  | 2  |
| 3月  | 0  | 0  |
| 合計  | 19 | 75 |

### 3. 通園部門（ひまわり園）

#### （１）通園の概要

福祉型児童発達支援センター（定員 50 人）と医療型児童発達支援センター（定員 40 人）があり、職員は園長ほか常勤 20 人（保育士 11 人 児童指導員 9 人）及び非常勤 5 人（保育士）が配置されました。令和元年度は、福祉型児童発達支援センター 107 人、医療型児童発達支援センター 10 人が通園を利用しました。3 歳児は親子通園、4 歳児及び 5 歳児は原則として単独通園で、幼稚園・保育園等に通いながらひまわり園にも通う併行通園のお子さんがとても多くいます。

#### （２）通園療育のねらい

##### ①お子さんへの支援

お子さんの発達の特性に配慮しながら、身体づくり、基本的な生活習慣の確立、豊かな人間関係の育成を目指します。また、個別療育目標を作成し、一人ひとりのお子さんに合わせた専門的な療育支援を行います。

##### ②家庭との連携と家族支援

お子さんの生活の基本は家庭です。お子さんの育ちの理解と子育てについて家族と共に考え、支援することを目指します。

##### ③地域生活への支援

お子さんが地域生活を健やかに送れるよう地域関連機関と連携・協力した支援を目指します。

#### （３）クラス編成

お子さんの発達の特性や年齢、併行通園等を考慮したクラス編成をしました。

|                   |        | 日数    | 形態 | 年齢     |
|-------------------|--------|-------|----|--------|
| 医療型<br>児童発達支援センター | ほし     | 週 5   | 単独 | 4・5 歳児 |
|                   | たいよう A | 週 1・2 | 親子 | 3 歳児   |
| 福祉型<br>児童発達支援センター | たいよう B | 週 1   | 親子 | 3 歳児   |
|                   | たいよう C | 週 1   | 親子 | 3 歳児   |
|                   | うみ     | 週 2・5 | 単独 | 4・5 歳児 |
|                   | つき     | 週 2・5 | 単独 | 4・5 歳児 |
|                   | つばさ A  | 週 2   | 併行 | 4・5 歳児 |
|                   | つばさ B  | 週 1   | 併行 | 4・5 歳児 |
|                   | いずみ A  | 週 1・2 | 親子 | 3 歳児   |
|                   | いずみ B  | 週 1   | 併行 | 4・5 歳児 |
|                   | いずみ C  | 週 1   | 親子 | 3 歳児   |
|                   | おがわ A  | 週 1・2 | 親子 | 3 歳児   |
|                   | おがわ B  | 週 1・2 | 親子 | 3 歳児   |
|                   | そら A   | 週 2   | 併行 | 4・5 歳児 |
|                   | そら B   | 週 1・2 | 併行 | 4・5 歳児 |
|                   | にじ A   | 週 1・2 | 併行 | 4・5 歳児 |
|                   | にじ B   | 週 2   | 併行 | 4・5 歳児 |

#### （４）通園形態とその目的

##### ①単独通園

お友だちや職員と共に過ごす中で様々な経験を積んでいきます。日常生活のリズムを作り、基本的な生活習慣を身につけ、豊かな人間関係を築いていくことを学んでいきます。

基本的には単独通園ですが、保護者にも療育に参加して頂けるよう、運動会・遠足などの行事を通して、お子さんの成長や課題等を職員と一緒に確認し、子育てを共に考えていく機会にしています。

##### ②親子通園

発達に遅れや偏りがあり、同年齢のお友だちと遊ぶことやコミュニケーションの難しさ、基本的な生活習慣に課題を抱えているお子さんが、保護者と一緒に小さな集団の中で楽しくいろいろな経験や練習（療育）を積み重ねていきます。

療育活動の中で、お子さんの様子について保護者と職員が共通理解づくりを図り、お子さんへの関わり方を一緒に考えていくと共に、保護者同士の交流を図ります。

##### ③併行通園

幼稚園・保育園等よりも少人数の集団で、環境や課題設定を分かり易くする等の工夫をしながら集団でより楽しく過ごす練習をしています。また、保護者とは家庭や幼稚園・保育園等でのお子さんの様子を確認し合い、幼稚園・保育園等とのより良い関係づくりや家庭での過ごし方等を共に考えていきます。

クラス担任や担当SWが、幼稚園・保育園等を訪問し、連携を図っていきます。

#### （５）療育時間とプログラム

| 時間    | 福祉型児童発達支援センター | 医療型児童発達支援センター |
|-------|---------------|---------------|
| 10:00 | 登園            | 登園            |
|       | 朝の仕度          | 健康チェック        |
|       | 着替え           | マッサージ         |
| 10:40 | 朝の集まり         | 朝の集まり         |
| 11:00 | 午前の活動         | 午前の活動         |
| 11:30 | 給食の準備         | 給食の準備         |
| 12:00 | 給食            | 給食            |
|       | 歯磨き           | 歯磨き           |
| 13:35 | 午後の活動         | 午後の活動         |
| 14:10 | 帰りの集まり        | 帰りの集まり        |
| 14:30 | 降園            | 降園            |

#### （６）利用児の状況

令和元年度の在籍児童数は表 3-1 のとおりです。療育プログラムの変更による入園が 10 月に 10 人ありました。1 日の平均通園児童数は 35.2 人でした(表 3-2)。前年度より 1.4 人減っています。療育を必要としている後期入園のお子さんの受け入れができるよう、3 歳児クラスを 3 クラス増やしています。今後も、よりクラス編成や登園曜日の組み合わせ等を柔軟に工夫し、療育を必要としているお子さんの受け入れを進めていきます。

在籍児童の男女比は、医療型児童発達支援センターは 8 割が女児、福祉型児童発達支援センターは男児が約 8 割を占めています(表 3-3)。年齢構成は、年長児がやや多く、年中児、年少児の順でした(表 3-3)。

また、福祉型児童発達支援センターに在籍している児童の約7割が自閉症・広汎性発達障害と診断されたお子さんたちでした(表3-4)。

在籍児童の約8割強が幼稚園や保育園、こども園、他の福祉施設等に通っています。幼稚園・保育園・こども園との併行通園が7割、その他の福祉施設等を利用しているお子さんが約1割となっています(表3-5)。併行通園先との連携を取り、協力しながら家族を支援していくために、幼稚園等の訪問も実施しました。今後も、幼稚園・保育園・こども園を始めとした、お子さんを取り巻く地域の関係機関との連携の充実がより求められると思われます。

併行通園と親子クラスのお子さんたちが多く、全体の5割強が週2日、約3割が週1日の登園日数でした(表3-6)。

卒園児の進路は、医療型の児童は市立養護学校に3人、金沢養護学校に1人、福祉型の児童は武山養護学校に4人、久里浜特別支援学校に1人、市立養護学校に3人、各市立小学校特別支援学級に30人、通常級に2人就学しました(表3-7)。就学したお子さんについては、保護者の了解のもと、担任が就学先の先生との引き継ぎを行いました。

表3-1 月別在籍児童数

| 月  | 医療型児童発達支援センター |       |       | 福祉型児童発達支援センター |       |       | 在籍児数<br>合計 |
|----|---------------|-------|-------|---------------|-------|-------|------------|
|    | 在籍数           | (内)入園 | (内)退園 | 在籍数           | (内)入園 | (内)退園 |            |
| 4  | 10            | 5     | 0     | 88            | 27    | 0     | 98         |
| 5  | 10            | 0     | 0     | 88            | 0     | 0     | 98         |
| 6  | 10            | 0     | 0     | 88            | 0     | 0     | 98         |
| 7  | 10            | 0     | 0     | 88            | 0     | 0     | 98         |
| 8  | 10            | 0     | 0     | 87            | 0     | 1     | 97         |
| 9  | 9             | 0     | 1     | 87            | 0     | 0     | 96         |
| 10 | 10            | 1     | 0     | 108           | 21    | 0     | 118        |
| 11 | 10            | 0     | 0     | 108           | 0     | 0     | 118        |
| 12 | 10            | 0     | 0     | 108           | 0     | 0     | 118        |
| 1  | 10            | 0     | 0     | 107           | 0     | 1     | 117        |
| 2  | 10            | 0     | 0     | 107           | 0     | 0     | 117        |
| 3  | 10            | 0     | 0     | 107           | 0     | 0     | 117        |

\*令和2年3月31日付け卒園児      医療型 4人   福祉型 46人

表 3-2 利用実績

| 月    | 医療型児童発達支援センター |            |               | 福祉型児童発達支援センター |            |               |
|------|---------------|------------|---------------|---------------|------------|---------------|
|      | 開園<br>日数      | のべ<br>通園児数 | 1 日平均<br>通園児数 | 開園<br>日数      | のべ<br>通園児数 | 1 日平均<br>通園児数 |
| 4 月  | 15            | 63         | 4.2           | 15            | 434        | 28.9          |
| 5 月  | 19            | 102        | 5.4           | 19            | 590        | 31.1          |
| 6 月  | 20            | 101        | 5.1           | 22            | 645        | 29.3          |
| 7 月  | 22            | 119        | 5.4           | 23            | 599        | 26.0          |
| 8 月  | 12            | 55         | 4.6           | 11            | 317        | 28.8          |
| 9 月  | 17            | 77         | 4.5           | 19            | 536        | 28.2          |
| 10 月 | 21            | 111        | 5.3           | 21            | 704        | 33.5          |
| 11 月 | 20            | 83         | 4.2           | 22            | 638        | 29.0          |
| 12 月 | 17            | 76         | 4.5           | 18            | 534        | 29.7          |
| 1 月  | 19            | 99         | 5.2           | 19            | 626        | 32.9          |
| 2 月  | 18            | 101        | 5.6           | 18            | 596        | 33.1          |
| 3 月  | 13            | 57         | 4.4           | 13            | 452        | 34.8          |
| 合 計  | 213           | 1,044      | 4.9           | 220           | 6,671      | 30.3          |

\*医療型児童発達支援センターと福祉型児童発達支援センターの開園日数の違いは、行事の振替え日等の違いによるものです。

表 3-3 年齢別在籍児童数(令和 2 年 3 月 31 日現在)

|      | 医療型児童発達支援センター |   |    | 福祉型児童発達支援センター |    |     | 合計 |    |     |
|------|---------------|---|----|---------------|----|-----|----|----|-----|
|      | 男             | 女 | 小計 | 男             | 女  | 小計  | 男  | 女  | 合計  |
| 2 歳児 | 0             | 0 | 0  | 0             | 0  | 0   | 0  | 0  | 0   |
| 3 歳児 | 1             | 3 | 4  | 27            | 7  | 34  | 28 | 10 | 38  |
| 4 歳児 | 0             | 2 | 2  | 29            | 4  | 33  | 29 | 6  | 35  |
| 5 歳児 | 1             | 3 | 4  | 29            | 11 | 40  | 30 | 14 | 44  |
| 合計   | 2             | 8 | 10 | 85            | 22 | 107 | 87 | 30 | 117 |

表 3-4 診断名別児童数

| 診断名      | 医療型児童発達支援センター |   |    | 福祉型児童発達支援センター |    |     | 合計  |
|----------|---------------|---|----|---------------|----|-----|-----|
|          | 男             | 女 | 小計 | 男             | 女  | 小計  |     |
| 自閉症      | 0             | 0 | 0  | 38            | 8  | 46  | 46  |
| 広汎性発達障害  | 0             | 0 | 0  | 27            | 6  | 33  | 33  |
| ダウン症候群   | 0             | 1 | 1  | 2             | 2  | 4   | 5   |
| 知的障害     | 0             | 0 | 0  | 4             | 2  | 6   | 6   |
| 脳性麻痺     | 1             | 1 | 2  | 0             | 0  | 0   | 2   |
| 精神運動発達遅滞 | 1             | 3 | 4  | 9             | 1  | 10  | 14  |
| その他      | 0             | 3 | 3  | 5             | 3  | 8   | 11  |
| 合計       | 2             | 8 | 10 | 85            | 22 | 107 | 117 |

表 3-5 併行通園等の状況(令和 2 年 3 月 31 日現在)

|      | 幼稚園    |        |        | 保育園    |        |        | こども園   |        |        | 福祉施設等  |        |        | その他    |        |        |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
|      | 医<br>療 | 福<br>祉 | 小<br>計 | 医<br>療 | 福<br>祉 | 小<br>計 | 医<br>療 | 福<br>祉 | 小<br>計 | 医<br>療 | 福<br>祉 | 小<br>計 | 医<br>療 | 福<br>祉 | 小<br>計 |
| 2 歳児 | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      |
| 3 歳児 | 0      | 8      | 8      | 0      | 3      | 3      | 0      | 11     | 11     | 4      | 9      | 13     | 0      | 1      | 1      |
| 4 歳児 | 0      | 13     | 13     | 0      | 4      | 4      | 0      | 5      | 5      | 0      | 2      | 2      | 0      | 1      | 1      |
| 5 歳児 | 0      | 20     | 20     | 0      | 5      | 5      | 0      | 10     | 10     | 0      | 2      | 2      | 0      | 0      | 0      |
| 合 計  | 0      | 41     | 41     | 0      | 12     | 12     | 0      | 26     | 26     | 4      | 13     | 17     | 0      | 2      | 2      |

表 3-6 利用契約日数別在籍数(令和 2 年 3 月 31 日現在)

|      | 週 1 日利用 |        |        | 週 2 日利用 |        |        | 週 3 日利用 |        |        | 週 4 日利用 |        |        | 週 5 日利用 |        |        |
|------|---------|--------|--------|---------|--------|--------|---------|--------|--------|---------|--------|--------|---------|--------|--------|
|      | 医<br>療  | 福<br>祉 | 小<br>計 | 医<br>療  | 福<br>祉 | 小<br>計 | 医<br>療  | 福<br>祉 | 小<br>計 | 医<br>療  | 福<br>祉 | 小<br>計 | 医<br>療  | 福<br>祉 | 小<br>計 |
| 2 歳児 | 0       | 0      | 0      | 0       | 0      | 0      | 0       | 0      | 0      | 0       | 0      | 0      | 0       | 0      | 0      |
| 3 歳児 | 1       | 19     | 20     | 3       | 15     | 18     | 0       | 0      | 0      | 0       | 0      | 0      | 0       | 0      | 0      |
| 4 歳児 | 0       | 7      | 7      | 0       | 18     | 18     | 0       | 0      | 0      | 0       | 0      | 0      | 2       | 8      | 10     |
| 5 歳児 | 0       | 13     | 13     | 0       | 24     | 24     | 0       | 0      | 0      | 0       | 0      | 0      | 4       | 3      | 7      |
| 合 計  | 1       | 39     | 40     | 3       | 57     | 60     | 0       | 0      | 0      | 0       | 0      | 0      | 6       | 11     | 17     |



表 3-7 卒園児の進路

| 進路先    | 医療 | 福祉 | 合計 |
|--------|----|----|----|
| 特別支援学級 | 0  | 30 | 30 |
| 特別支援学校 | 4  | 8  | 12 |
| 通常の学級  | 0  | 2  | 2  |
| 合計     | 4  | 40 | 44 |

## (7) 主な行事

| 月   | 行事名                                                                                                                                           |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4月  | 入園式(親子 64 人) クラス懇談会(保護者 54 人) 保護者全体懇談会(保護者 33 人)                                                                                              |
| 5月  | 就学説明会(年中・年長児保護者 60 人) 保護者勉強会(保護者 24 人)<br>保護者給食試食会(保護者 16 人)                                                                                  |
| 6月  | 個別療育面談 県立武山養護学校見学会(保護者 9 人) 県立金沢養護学校見学会(保護者 2 人)<br>保護者参加日(親子 90 人) 保護者参観(保護者 55 人) 給食試食会(保護者 50 人)<br>クラス懇談会(保護者 56 人) 交流保育 保護者勉強会(24 人) 水治療 |
| 7月  | 保護者参加日(親子 30 人) 市立養護学校見学会(保護者 14 人) 交流保育<br>保護者勉強会(保護者 18 人) 水治療                                                                              |
| 8月  | 就学相談会 保護者会イベント(親子他 111 人) 水治療 運動会(親子 22 人)<br>ウエルカム療育デイ(併行先職員) ひまわり園見学会(併行先職員 23 人)                                                           |
| 9月  | 運動会(親子 60 人) 10月入園説明会(保護者 22 人) 水治療 保護者勉強会(保護者 20 人)                                                                                          |
| 10月 | 個別療育面談 保護者参観(保護者 15 人) 県立武山養護学校見学会(保護者 12 人)<br>交流保育 保護者勉強会(保護者 8 人) 保護者給食試食会(保護者 14 人) 水治療                                                   |
| 11月 | 引き取り訓練(親子 50 人) 保護者参加日(親子 72 人) 遠足(親子 39 人) 交流保育 保<br>護者勉強会(保護者 19 人) 水治療                                                                     |
| 12月 | 保護者参加日(親子 52 人)                                                                                                                               |
| 1月  | 保護者参観(保護者 7 人) クラス懇談会(保護者 12 人)                                                                                                               |
| 2月  | 個別療育面談 保護者参観(保護者 52 人) クラス懇談会(保護者 60 人)                                                                                                       |
| 3月  | クラス懇談会(保護者 13 人) 入園説明会 卒園式(親子 111 人)                                                                                                          |

\* 身体測定・内科検診・耳鼻科検診・歯科検診も行いました。

\* 避難訓練は毎月行いました。

\* 水治療は、6月から11月の間に、12回行いました。

\* 給食試食会は、6月にクラスごとに実施し50人の保護者が、また後期入園のお子さんの保護者は10月に14人参加しました。

### （８）保護者支援

保護者と共に子育てを考えることを大切に、定期的に「個別療育面談」と「懇談会」を行いました。定期的な面談以外にも、保護者との面談は必要に応じ随時行いました。親子クラスの保護者を対象に、ミニ勉強会も実施しました。また、お子さんの成長のプロセス等について共通の理解を深め、日常の子育てや療育に反映できるよう、保護者勉強会も行いました（表 3-8）。

この他、ひまわり園の保護者会も 11 年目となり、月 1 回の園長と保護者会クラス代表との保護者役員会定例会では、園の運営等に関する意見交換や保護者役員各担当からの報告・確認など行ってきました。保護者同士の縦横の交流の機会として、保護者会が主催する「ピアカウンセリング（先輩ママとの座談会）」では、準備から当日の運営等のサポートにも取り組みました（表 3-9）。

表 3-8 保護者勉強会の開催状況

| 日時     | テーマ                             | 講師           | 参加人数 |
|--------|---------------------------------|--------------|------|
| 5月9日   | 発達をのばすには                        | 療育相談センター所長   | 24 人 |
| 6月7日   | 横須賀市の障害福祉サービスとサポートブックについて       | 横須賀市福祉部障害福祉課 | 24 人 |
| 7月18日  | 子どものそだちをどうとらえるか<br>～発達障害の理解と支援～ | 診療課 心理士      | 18 人 |
| 9月26日  | 楽しく遊ぼう～遊びのヒントを考える～              | 診療課 作業療法士    | 20 人 |
| 10月25日 | お母さん・お父さんの身体にやさしいお子さんの関わり方      | 診療課 理学療法士    | 8 人  |
| 11月21日 | コミュニケーションとことばについて               | 診療課 言語聴覚士    | 19 人 |

表 3-9 ピアカウンセリング（先輩ママとの座談会）の開催状況

| 日時    | テーマ                    | 先輩お母さんたち                               | 参加人数                        |
|-------|------------------------|----------------------------------------|-----------------------------|
| 7月2日  | 普段の生活や学校生活について         | 市立養護学校、金沢養護学校に就学した卒園児の保護者              | 医療型クラスの保護者 10人<br>(内、福祉型3人) |
| 7月4日  | 学校生活について               | 武山養護学校、久里浜養護学校、市内小学校支援級に就学した卒園児の保護者    | 福祉型クラスの保護者 40人<br>(内、医療型2人) |
| 1月30日 | 就学、兄弟との接し方、日常生活の工夫について | 横須賀の福祉を推める会、たんぽぽの会、つくしの会、sukasuka-ippo | 福祉型クラスの保護者 41人<br>(内、医療型1人) |
| 2月21日 | 日常のこと、就学・将来のことについて     | 横須賀市肢体不自由児者父母の会                        | 医療型クラスの保護者 7人<br>(内、福祉型2人)  |

\*保護者会主催で、ひまわり園保護者の親睦を目的とした「ひまわり園保護者全体親睦会」を11月5日に行いました。35人の保護者が参加しています。

\*ひまわり園の夏休み期間中(8月5日)に、ひまわり園に通うお子さんやその兄弟、保護者を対象としたイベント「ひまわりサマー」を保護者会主催で実施しました。ひまわり園のホールを使い、10:00～11:30「夏休みキッズコンサート」と題し、みゅーまるさんによる歌やお話しを楽しみました。参加型イベントとして、シールラリー・的あてを行いました。参加者は、園児37人を含む111人でした。

## (9) 職員研修

職員の資質の向上・専門的スキルの習得等を目的とした、職員の外部研修への派遣を重点的に行いました

### 職員派遣研修一覧

- ・法人内通園課主任専門部会(2人)
- ・心身障害児保育研究会主催「施設見学」(1人)
- ・法人内専任職研修(1人)
- ・心身障害児保育研究会主催「施設見学」(1人)
- ・法人内中堅職員研修(1人)
- ・逗子市くろーばー主催 支援者研修会「集団も個も育ちあう保育・教育・療育」(1人)
- ・施設のまちづくりを進める市民集会主催「横須賀における、てんかんの治療について」(1人)
- ・市立養護学校主催「摂食実技夏季公開講座」(1人)
- ・心身障害児保育研究会主催「施設見学」(2人)
- ・施設間交流研修「社会福祉法人横須賀基督教社会館きりんグループ」(1人)
- ・日本てんかん協会神奈川県支部主催「てんかんの基礎」「てんかんと発達障害」(8人)

- ・淑徳大学主催「発達臨床研修セミナー」(1 人)
- ・日本発達障害連盟主催「子どもの発達支援と家族の支援の重要性」(1 人)
- ・NPO 法人かながわ障がいケアマネジメント従事者ネットワーク主催「児童発達支援管理責任者更新研修」(2 人)
- ・法人内通園課専門部会主催「身体の使い方～OT から見た基本と実践」(24 人)
- ・横須賀市立養護学校主催「重症心身障害児のコミュニケーションについて」(1 人)
- ・横須賀市こども育成部主催「事故防止のための講演会」(1 人)
- ・心身障害児保育研究会主催「施設見学」(1 人)
- ・施設間交流研修「ライフゆうにて実習」(1 人)
- ・横須賀市立田戸小学校支援級実習研修(1 人)
- ・川崎西部地域療育センター実習研修(1 人)
- ・NPO 法人かながわ障がいケアマネジメント従事者ネットワーク主催「神奈川県サービス管理責任者等研修 基礎研修」「神奈川県サービス管理責任者補足研修」(1 人)
- ・横須賀市児童相談所主催「子どもの虐待対応～虐待する親の心理～」(1 人)
- ・発達協会主催「発達障害・知的障害のある子の感覚への対応」(1 人)
- ・横須賀市立田戸小学校支援級実習研修(1 人)
- ・心身障害児保育研究会主催「施設見学」第一松風園(1 人)
- ・発達協会主催「保護者支援について～発達障害・知的障害のある子どもの家族への支援～」(1 人)
- ・発達協会主催「幼児期・学童期に育てたい集団参加の力～衝動的な子への対応も含めて～」(1 人)
- ・神奈川県主催「医療的ケア児等支援者養成研修会」(1 人)
- ・法人内通園主任専門部会(1 人)
- ・通園課活動実施報告研修(17 人)
- ・筑波大学付属久里浜特別支援学校主催「自閉症児の実態に応じた教材・教具づくり」(1 人)
- ・横須賀市社会福祉協議会主催「施設職員研修会」(2 人)
- ・NPO 法人かながわ障がいケアマネジメント従事者ネットワーク主催「児童発達支援管理責任者更新研修」(1 人)

#### (10) ボランティアの活動

親子登園時に同行してくる弟妹の保育対応のボランティアの受入れを昨年度と同様に行いました(表 3-11)。

表 3-11 弟妹ボランティアの実績

|       | ボランティア数 | 活動回数  | 利用実人数 | 利用のべ人数 |
|-------|---------|-------|-------|--------|
| 令和元年度 | 9 人     | 144 回 | 10 人  | 144 人  |
| 前年度   | 6 人     | 155 回 | 12 人  | 155 人  |

## (11) 地域対応

### 〈幼稚園・保育園等巡回訪問〉

- ・保護者の了解を得て、併行通園のお子さんの幼稚園・保育園・認定こども園にのべ 100 回訪問し、お子さんの様子を確認すると共に情報交換を行いました。

### 〈幼稚園・保育園等、学校への引き継ぎ〉

- ・必要に応じ、保護者の了解を得て、来年度幼稚園・保育園等に入園予定のお子さんの引き継ぎを行いました。また、来年度就学するお子さんの支援級、養護学校との引き継ぎを行いました。

### 〈交流保育〉

- ・毎年、併行通園の経験がない福祉型のお子さんが、公立保育園に赴き保育園児と交流を行っていましたが、希望がなく令和元年度の実施はありませんでした。ひまわり園に保育園児を招き、医療型クラスのお子さんとの交流は 3 回行いました。

## (12) 実習生、研修生の受け入れ

### 〈保育実習生〉

|             |             |    |
|-------------|-------------|----|
| ・洗足こども短期大学  | 6月26日～7月10日 | 2人 |
| ・帝京平成大学     | 7月1日～7月17日  | 1人 |
| ・鎌倉女子大学短期大学 | 8月19日～9月4日  | 1人 |

### 〈看護学生〉

|              |        |    |
|--------------|--------|----|
| ・横須賀市立看護専門学校 | 5月23日  | 5人 |
|              | 6月13日  | 5人 |
|              | 7月4日   | 4人 |
|              | 7月25日  | 5人 |
|              | 9月19日  | 4人 |
|              | 10月31日 | 5人 |
|              | 11月21日 | 4人 |
| ・神奈川衛生学園専門学校 | 1月16日  | 5人 |
|              | 1月24日  | 5人 |
|              | 2月6日   | 4人 |
|              | 2月14日  | 4人 |
|              | 2月20日  | 4人 |

### 〈その他〉

|                |                  |    |
|----------------|------------------|----|
| ・鶴見大学短期大学部専攻科  | 5月23日・30日        |    |
|                | 6月6日・13日・20日・27日 | 1人 |
| ・横須賀市新規採用職員    | 5月24日            | 9人 |
|                | 5月31日            | 2人 |
| ・sukasuka-ippo | 6月11日            | 5人 |
| ・神奈川県児童相談所     | 6月12日            | 1人 |
| ・国立特別支援教育総合研究所 | 7月2日             | 9人 |
| ・sukasuka-ippo | 7月9日             | 4人 |
| ・横浜市東部地域療育センター | 7月10日            | 1人 |
| ・発達支援コーディネーター  | 7月26日            | 9人 |
|                | 7月30日            | 9人 |

|               |           |    |
|---------------|-----------|----|
| ・岩戸養護学校       | 7月31～8月2日 | 1人 |
| ・横浜家庭裁判所      | 8月27日     | 1人 |
| ・県立保健福祉大学     | 9月13日     | 2人 |
| ・横須賀市立保育園新人職員 | 9月26日     | 6人 |
| ・茜洋舎          | 11月28日    | 1人 |
| ・希望のひかり       | 11月28日    | 1人 |
| ・こどもひろば風      | 11月28日    | 1人 |
| ・神奈川学園中学高等学校  | 12月12日    | 2人 |
| ・子育て支援員       | 2月5日      | 1人 |

## 4. 管理部門

### (1) 療育相談センターの財政

横須賀市療育相談センターは、横須賀市からの指定管理料により運営されています。

平成 31(令和元)年度の決算内訳は、人件費約 3 億 6,800 万円(83.1%)、事務費 4,300 万円(9.7%)、事務管理経費約 2,500 万円(5.6%)、事業費約 700 万円(1.6%) 約 4 億 4,300 万円でした。

### (2) 送迎業務（通園バス運行）

通園送迎バスとして、小型マイクロバス 3 台を民間会社に委託して運行しました。市内を 3 つのルートに分け、各ルートに運転手の他、通園担当職員 1 人、非常勤添乗員 1 人を配置し、園児を安全に送迎することを心がけました。

通常運行の他、保護者参加日、遠足等の行事や、園児の保護者を対象とした養護学校の見学会等においても運行を行いました。

1. 基本運行時間 午前便 8:50～10:00

午後便 14:30～15:40

2. 運行ルート ①ひまわり号（追浜方面） 乗車定員 25 人

②めろん号（浦賀方面） 乗車定員 25 人

③さくら号（林方面） 乗車定員 25 人

### (3) 給食業務

通園利用児に給食を提供しました。調理業務は民間会社に委託し、療育相談センター管理栄養士は献立作成、特別食の指示、栄養相談などを行いました。

#### ① 通園給食実施状況（表 4-1）

表 4-1

|                     | 4<br>月 | 5<br>月 | 6<br>月 | 7<br>月 | 8<br>月 | 9<br>月 | 10<br>月 | 11<br>月 | 12<br>月 | 1<br>月 | 2<br>月 | 3<br>月 | 合計     |
|---------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|---------|---------|--------|--------|--------|--------|
| 実施日数                | 14     | 19     | 22     | 23     | 11     | 18     | 22      | 22      | 18      | 19     | 18     | 12     | 218    |
| 幼 児 食               | 464    | 672    | 735    | 701    | 358    | 586    | 802     | 687     | 594     | 712    | 688    | 464    | 7463   |
| 指 導 食               | 365    | 527    | 556    | 587    | 305    | 488    | 581     | 551     | 462     | 518    | 479    | 310    | 5729   |
| 外 来 者<br>(保護者・研修生等) | 14     | 51     | 127    | 87     | 12     | 13     | 23      | 43      | 30      | 9      | 16     | 0      | 425    |
| 検食・保存食              | 42     | 57     | 66     | 69     | 33     | 54     | 66      | 66      | 54      | 57     | 54     | 36     | 654    |
| 合 計                 | 885    | 1,307  | 1,484  | 1,444  | 708    | 1,141  | 1,472   | 1,347   | 1,140   | 1,296  | 1,237  | 810    | 14,271 |

#### ② 特別形態食について

幼児食の他に 4 種類の形態を用意し、口腔機能の発達に合わせた食形態を提供しました。  
また、食物アレルギーのお子さんへの個別対応を行いました。

<食形態区分> (年間のべ人数)

i) えんげ食(2人)

口から食物摂取を始める初期段階のお子さんを対象とした食事です。

主食は、粒なしのおかゆゼリー

主菜・副菜はすべてミキサーにかけ、粒のないなめらかなペースト状で提供しました。

また、水分補給用にお茶ゼリーを提供しました。

ii) 押しつぶし準備食(5人)

舌を上下に動かし押しつぶす練習をする時期のお子さんを対象とした食事です。

主食は、粒ありのおかゆゼリー

肉・魚のムースを使用し、野菜等はなめらかなマッシュ状で提供しました。

iii) 押しつぶし食(2人)

押しつぶし機能獲得の時期のお子さんを対象とした食事です。

主食は、全粥

肉・魚のムースを使用し、野菜等は1cm角に切って圧力鍋でやわらかくし、舌と上あごで押しつぶして飲み込めるように調理して提供しました。

iv) そしゃく食(13人)

そしゃく機能獲得の時期のお子さんを対象とした食事です。

主食は、軟飯

肉は圧力鍋でやわらかくし、魚や揚げ物は一口大に切り、とろみのあんをかけて噛みやすく、まとまりやすいように調理しました。

また、野菜等は圧力鍋を使用して、歯ぐきでつぶせるくらいのやわらかさに調理して提供しました。

以上4種類の食形態を提供しましたが、状態に応じて個別対応をしました。

<アレルギー対応>

医師の診断書等に基づき、除去食・代替食品で対応しました。

卵除去(1人) さば・卵除去(1人) えび・かに除去(1人)

納豆除去(1人) 納豆・野菜ジュース除去(1人)

<偏食対応>

偏食や味覚の過敏等で、給食を食べることが難しい場合は、主食については代替対応しました。

③ 行事食

季節ごとに旬の食材を取り入れ、季節感を感じられるような献立にしました。

行事食は、クリスマスなどに提供しました。

④ 保護者への対応

<保護者参加日>

年間2回(6・7月、11・12月)の保護者参加日に、保護者を対象に給食を提供しました。

<試食会>

各クラスごとに年に1回、試食会を実施しました。

<献立表>

月に1回、翌月の献立をお知らせしました。また、献立の給食のレシピを自由に



参考にしてもらえよう、通園のラウンジに掲示しました。

＜その他＞

昼食中に各クラスを回り、保護者（親子通園）からの意見や感想等を伺いました。

⑤ 栄養相談実施状況

＜摂食外来＞

月 2 回行われる摂食外来において、適切な食事量・水分量・特別形態食の調理などの相談を行いました。

＜個別相談＞

アレルギーの除去食や特別形態食の調理法など、保護者の要望により、個別の相談に応じました。

⑥ その他

＜給食委員会＞

給食の摂取状況を把握し、通園児の食事の嗜好や栄養への配慮、メニューの工夫など、適切な給食提供のために、月 1 回開催しました。

＜給食アンケート＞

試食会の時に、保護者の方々に給食に関するアンケートを依頼しました。結果は、給食業務の参考としました。

(4) 運営協議会

療育相談センターの円滑な運営を行うことを目的とし、横須賀市、保育・教育関係施設、センター利用保護者、学識経験者等 17 人の委員で構成される運営協議会を平成 20 年度に設置しました。

平成 31(令和元)年度は、運営協議会を 7 月、2 月の年 2 回開催し、療育相談センター平成 31 年度の事業報告及び平成 31(令和元)年度の事業計画等についての報告を行いました。

各委員より忌憚のないご意見をいただき、センターの機能や役割、市内における障害児を取り巻く状況や課題を関係者との間で相互に理解、認識をもつことができ、大変有意義な会議になりました。

① 委員の構成（17 人）

|                                      |     |
|--------------------------------------|-----|
| ・横須賀市健康福祉センター代表                      | 1 人 |
| ・横須賀市児童相談所代表                         | 1 人 |
| ・横須賀市こども育成部担当者                       | 1 人 |
| ・保育園関係者（公立・私立）                       | 2 人 |
| ・幼稚園関係者                              | 1 人 |
| ・センター児童発達支援センター<br>通園児保護者代表（福祉型・医療型） | 2 人 |
| ・センター診療所外来利用児保護者代表                   | 1 人 |
| ・障害者施策検討連絡会代表                        | 1 人 |
| ・学識経験者                               | 2 人 |
| ・教育委員会代表                             | 1 人 |

- ・地域代表 1 人
- ・センター苦情解決・第三者委員 1 人
- ・センター所長、園長 2 人

## ② 第 1 回運営協議会

- ・日 時 令和元年 7 月 24 日（火）10:30～12:00
- ・場 所 横須賀市療育相談センター4 階 生活訓練室
- ・出席者 24 人（委員 13 人、委員代理 2 人、オブザーバー6 人、事務局 3 人）
- ・内 容 平成 30 年度事業報告  
平成 31(令和元)年度事業計画

## ③ 第 2 回運営協議会

- ・日 時 令和 2 年 2 月 20 日（水）10:30～12:00
- ・場 所 横須賀市療育相談センター4 階 生活訓練室
- ・出席者 23 人（委員 15 人、オブザーバー5 人、事務局 3 人）
- ・内 容 平成 31(令和元)年度上半期事業報告

## (5) 苦情解決

社会福祉法第 82 条の規定により、当センターでは利用者からの苦情に適切に対応する体制をとっています。

当センターにおける苦情解決責任者、苦情受付担当者及び第三者委員を下記により設置しています。

平成 31(令和元)年度委員等構成

- 苦情解決責任者 広瀬 宏之（横須賀市療育相談センター所長）
- 苦情受付担当者 瀧澤 建（横須賀市療育相談センター管理課長）
- 第 三 者 委 員 前田 幾代（社会福祉法人 三育福祉会 特別養護老人ホーム  
シャローム理事）
- 第 三 者 委 員 後藤 博行（社会福祉法人 横須賀たんぽぽの郷 わたげ施設長）

## (6) 管理部門研修参加

職員派遣研修一覧

- ・社会福祉法人青い鳥 栄養士専門部会（計 4 回、のべ 4 人）
- ・神奈川県公安委員会主催 安全運転管理者講習（1 人）
- ・社会福祉法人青い鳥 管理職研修「パワハラ防止研修」他（計 3 回、のべ 12 人）
- ・横須賀市立養護学校主催 摂食実技夏季公開講座（1 人）
- ・NPO 法人アレルギーを考える母の会・社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会主催  
アレルギー出張講座「食物アレルギーの基礎知識と緊急対応」（1 人）
- ・横須賀市主催 てんかんの研修会市民公開講座（1 人）
- ・横須賀市主催 「働く人のメンタルヘルス研修会」（1 人）
- ・YMG 林会計主催 「健康経営優良法人認定について」（1 人）
- ・神奈川県社会福祉協議会主催 「施設長・管理職のためのスーパービジョン研修」(1 人)

## 5. その他

### (1) 学会発表、講演、論文

#### ①学会

##### 講演

広瀬宏之 発達障害の理解と対応のコツ 第 57 回新潟小児神経学会特別講演 新潟市 令和元年 7 月 13 日

広瀬宏之 発達障害の理解と対応のコツ 第 38 回静岡小児内分泌懇話会教育講演 静岡市 2 令和元年 7 月 6 日

#### ②講演（横須賀市内のみ）

広瀬宏之 発達障害の理解と対応のコツ 横須賀市保育会 保育内容研修 横須賀市 令和元年 6 月 13 日

広瀬宏之 発達障害の理解と対応のコツ 令和元年度横須賀市発達支援コーディネーター研修 横須賀市 令和元年 9 月 9 日

広瀬宏之 医療機関との連携 令和元年度 国立特別支援教育総合研究所 第 3 期 特別支援教育専門研修 横須賀市 令和 2 年 3 月 5 日

#### ③論文・その他

##### 単著

広瀬宏之(2019) 発達・子育て相談のコツ—小児精神・神経科医の 100 問・100 答 岩崎学術出版社

広瀬宏之(2020) 発達障害支援の実際 事例から学ぶダイアログのコツ 岩崎学術出版社

##### 総説

広瀬宏之(2019) 発達障害に医療はどう関われるか 教育と医学 67:1:12-18

広瀬宏之(2019) 不登校 専門家による私の治療 日本医事新報 4975:53

広瀬宏之(2019) 子育て相談でここがけていること 岩崎学術出版社学術通信 p.2-3

##### 共著

広瀬宏之(2019) 障害児等の理解と保育における発達の支援 最新保育士養成講座 第 5 巻 p162-190 全国社会福祉協議会出版部

広瀬宏之(2019) 障害がある子どもへの対応 最新保育士養成講座 第 7 巻 p185-189 全国社会福祉協議会出版部

## (2) 所内研修

### ①横須賀市療育相談センター職員全体研修

令和元年度職員全体研修を実施し職員全体のスキルアップを図りました。

表 5-1

| 実施日   | 研修内容                      | 講師（敬称略）                    | 実施場所         | 受講者数 |
|-------|---------------------------|----------------------------|--------------|------|
| 6月4日  | 発達障害の目標と多様性               | 横須賀市療育相談センター<br>所長 広瀬 宏之   | 横須賀市療育相談センター | 46人  |
| 7月25日 | 「八王子の療育事情<br>～しまはちの取り組み～」 | 島田療育センターはちおうじ<br>所長 小沢 宏 氏 | 横須賀市療育相談センター | 51人  |
| 10月4日 | AED 操作訓練                  | —                          | 横須賀市療育相談センター | 30人  |
| 11月5日 | 当事者とその家族の話                | たんぼほの会<br>会長 市川 成子 氏       | 横須賀市療育相談センター | 43人  |
| 2月18日 | 事例報告                      | —                          | 横須賀市療育相談センター | 39人  |

### ②不審者対応研修

令和元年度不審者対応研修を実施し、療育相談センターの危機管理の意識を高めました。

表 5-2

| 実施日   | 研修内容               | 講師（敬称略）                   | 実施場所         | 受講者数 |
|-------|--------------------|---------------------------|--------------|------|
| 1月27日 | 不審者対応研修<br>不審者対応訓練 | 神奈川県横須賀警察署<br>生活安全課少年係 1人 | 横須賀市療育相談センター | 38人  |

### (3) 視察・見学者等の受入れ状況

他都市及び関係機関からの依頼により視察・見学者等を受入れ、施設の案内、業務の説明等を行いました（表5-3）

受入れ件数 : のべ73件

視察・見学者人数 : のべ239人

表5-3

| No. | 受入れ日  | 団 体 名 等                      | 人 数  |
|-----|-------|------------------------------|------|
| 1   | 4月19日 | 横須賀市支援教育課職員                  | 1 人  |
| 2   | 5月14日 | 金沢養護学校教員                     | 2 人  |
| 3   | 5月23日 | 横須賀市立看護専門学校                  | 5 人  |
| 4   | 5月24日 | 横須賀市新規採用職員                   | 9 人  |
| 5   | 5月31日 | 横須賀市新規採用職員                   | 2 人  |
| 6   | 6月3日  | 自衛隊病院医師                      | 2 人  |
| 7   | 6月11日 | sukasuka-ippo職員              | 5 人  |
| 8   | 6月12日 | 神奈川県内児童相談所相談員                | 7 人  |
| 9   | 6月14日 | 横須賀市立ろう学校教員                  | 1 人  |
| 10  | 6月25日 | 湘南医療大学学生                     | 3 人  |
| 11  | 6月27日 | 横須賀市こども育成部職員                 | 7 人  |
| 12  | 7月2日  | 国立特別支援教育総合研究所研修生・引率者         | 12 人 |
| 13  | 7月8日  | 自衛隊病院医師                      | 2 人  |
| 14  | 7月9日  | sukasuka-ippo職員              | 5 人  |
| 15  | 7月10日 | 横浜市東部地域療育センター児童指導員           | 1 人  |
| 16  | 7月16日 | 横浜市東部地域療育センター作業療法士           | 1 人  |
| 17  | 7月17日 | 横浜家庭裁判所横須賀支部調査官              | 1 人  |
| 18  | 7月22日 | 追浜保育園職員                      | 1 人  |
| 19  | 7月23日 | うさぎ保育園職員                     | 2 人  |
| 20  | 7月23日 | 関東学院六浦こども園職員                 | 2 人  |
| 21  | 7月24日 | 深愛幼稚園職員                      | 2 人  |
| 22  | 7月24日 | 横須賀市職員保健師                    | 6 人  |
| 23  | 7月26日 | 横須賀市発達支援コーディネーターフォローアップ研修受講者 | 9 人  |
| 24  | 7月26日 | 横須賀若葉幼稚園職員                   | 2 人  |
| 25  | 7月29日 | しんわピノキオ保育ランド職員               | 2 人  |
| 26  | 7月29日 | 認定こども園聖心第二幼稚園職員              | 2 人  |
| 27  | 7月30日 | 横須賀市発達支援コーディネーターフォローアップ研修受講者 | 9 人  |
| 28  | 7月31日 | 県立岩戸養護学校職員                   | 1 人  |
| 29  | 8/1,2 | 県立岩戸養護学校職員                   | 1 人  |
| 30  | 8月2日  | 横浜家庭裁判所横須賀支部調査官              | 1 人  |
| 31  | 8月5日  | 神奈川県立保健福祉大学学生                | 1 人  |
| 32  | 8月19日 | 鎌倉女子大学学生                     | 1 人  |
| 33  | 8月23日 | ひまわり園併行通園先職員                 | 23 人 |

|    |        |                           |      |
|----|--------|---------------------------|------|
| 34 | 8月26日  | 自衛隊病院医師                   | 2 人  |
| 35 | 8月27日  | 横浜家庭裁判所横須賀支部調査官           | 1 人  |
| 36 | 8月28日  | 久里浜幼稚園職員                  | 1 人  |
| 37 | 9月9日   | 国際医療福祉大学学生                | 1 人  |
| 38 | 9月13日  | 県立保健福祉大学学生                | 2 人  |
| 39 | 9月17日  | 北里大学教員                    | 1 人  |
| 40 | 9月26日  | 横須賀市立保育園職員                | 6 人  |
| 41 | 10月3日  | 若葉幼稚園職員                   | 1 人  |
| 42 | 10月7日  | 自衛隊病院医師                   | 2 人  |
| 43 | 10月11日 | 北里大学教員                    | 1 人  |
| 44 | 10月18日 | 逸見保育園職員                   | 1 人  |
| 45 | 11月8日  | 横浜市中部地域療育センター職員           | 1 人  |
| 46 | 11月12日 | 横浜家庭裁判所横須賀支部調査官           | 1 人  |
| 47 | 11月14日 | 小児療育相談センター職員              | 1 人  |
| 48 | 11月18日 | 法人内子育て事業部子育て支援アドバイザー研修受講者 | 28 人 |
| 49 | 11月25日 | 自衛隊病院医師                   | 2 人  |
| 50 | 11月28日 | 希望のひかり、茜洋舎、こどもひろば風職員      | 3 人  |
| 51 | 11月29日 | 横浜市南部地域療育センター職員           | 1 人  |
| 52 | 12月3日  | 北里大学教員                    | 1 人  |
| 53 | 12月3日  | 小児療育相談センター職員              | 1 人  |
| 54 | 12月5日  | 小児療育相談センター職員              | 1 人  |
| 55 | 12月6日  | 小児療育相談センター職員              | 1 人  |
| 56 | 12月9日  | 小児療育相談センター職員              | 1 人  |
| 57 | 12月12日 | 神奈川学園中学生                  | 2 人  |
| 58 | 12月19日 | 横浜市東部地域療育センター職員           | 1 人  |
| 59 | 12月19日 | 小児療育相談センター職員              | 1 人  |
| 60 | 1月7日   | 横須賀市こども青少年支援課職員           | 1 人  |
| 61 | 1月14日  | 小児療育相談センター職員              | 1 人  |
| 62 | 1月14日  | 自衛隊病院医師                   | 2 人  |
| 63 | 1月22日  | ケンコウ幼稚園職員                 | 6 人  |
| 64 | 1月24日  | 保育士採用試験受験希望者              | 1 人  |
| 65 | 2月5日   | あいらんど職員                   | 1 人  |
| 66 | 2月10日  | 横須賀市保健所健康づくり課医長           | 1 人  |
| 67 | 2月18日  | 津久井保育園職員                  | 2 人  |
| 68 | 2月18日  | WiSH職員                    | 2 人  |
| 69 | 2月19日  | 横須賀市立養護学校教員               | 8 人  |
| 70 | 2月19日  | WiSH職員                    | 2 人  |
| 71 | 2月25日  | 自衛隊病院医師                   | 2 人  |
| 72 | 2月27日  | 横須賀市こども健康課職員              | 12 人 |
| 73 | 2月28日  | WiSH職員                    | 2 人  |

### III. 資 料 編





## 社会福祉法人 青い鳥 の沿革

(◇は旧青い鳥法人関連の事項)

|                  |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|------------------|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 昭和41年<br>(1966年) | 9月  | 財団法人「子どもたちの未来をひらく父母の会」(サリドマイド児の親の団体)からの寄付金を基本財産として、心身障害児の早期発見、早期療育および社会啓発を事業目的とする財団法人「神奈川県児童医療福祉財団」を設立。<br><br>理事長村山午朔(元神奈川県衛生部長)、専務理事飯田進。                                                                                                                                                                                                               |
| 昭和42年<br>(1967年) | 1月  | 初代理事長村山午朔逝去。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|                  | 2月  | 飯田進理事長就任。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|                  | 6月  | 県・横浜市からの建設費補助等により、横浜市磯子区汐見台に、財団第一期事業として、当時の児童福祉法上、認められていなかった就学前障害児のための無認可通園施設「青い鳥愛児園」を開設。                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 昭和43年<br>(1968年) | 6月  | 県・横浜市・日本自転車振興会等の建設費補助により、横浜市神奈川区西神奈川に、財団第二期事業として全国の親の会等諸団体の要望の強かった障害児の療育機関「小児療育相談センター」を開設。和泉成之博士(元長崎大学学長)初代所長に就任。「青い鳥診療所」「精神衛生相談室(現「心理相談室」)」「福祉相談室」同時にスタート。<br><br>「心身障害児巡回等相談事業」開始(県民生部委託事業)。県域幼稚園・保育園(全体700園の約14%)からの要請により1園あたり年2~3回、ソーシャルワーカーによる巡回相談を実施し、保育現場とともに障害児統合保育実践を推進。<br>小児療育相談センター内に「検診事業部」を設置し、県域の幼児(5歳児)を対象とする「小児心臓疾患巡回検診事業」開始(県衛生部委託事業)。 |
| 昭和44年<br>(1969年) | 9月  | 3歳児健康診査の未受診児を対象とする「幼児巡回健康診査事業」開始(県衛生部委託事業、3歳児健診システム変更のため昭和51年で終了)。                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 昭和45年<br>(1970年) | 5月  | 幼児(5歳児、のち4歳児に年齢変更)を対象とする「視聴覚異常児発見事業」開始(県衛生部委託事業)。併せて小児療育相談センター内で要精密検査児を対象とした眼科・耳鼻科の診療(週1回)を開始。                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 昭和46年<br>(1971年) | 4月  | 小児療育相談センター内に「調査研究室」を設置。厚生省委託研究その他の調査研究にあたる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 昭和47年<br>(1972年) | 4月  | 養護学校の全国的な整備に伴い、「青い鳥愛児園」が児童福祉法上の精神薄弱児通園施設として認可される。                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|                  | 10月 | 電機連合神奈川地方協議会内に障害福祉委員会が設置される。財団よりソーシャルワーカー出向、組合内の障害児をもつ家族、障害者組合員の相談と組合員相互扶助活動の推進を担当(平成6年の社会福祉法人「電機神奈川福祉センター」発足まで継続)。                                                                                                                                                                                                                                      |
| 昭和48年<br>(1973年) | 4月  | 診療相談部門に新たに「地域対策室」を設置。従来の巡回相談事業のほかに、成人障害者の就労援助活動の強化にあたる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 昭和49年<br>(1974年) | 4月  | 横浜市における「視聴覚検診事業」開始(市衛生局委託事業)。検診数約40,000人。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 昭和50年<br>(1975年) | 8月  | 「小児療育相談センター」所長和泉成之博士逝去。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|                  | 12月 | 療育指導誌「育つ」発行(年4冊発行、平成2年まで60冊で終了)。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 昭和51年<br>(1976年) | 1月  | 佐々木正美医師(児童精神科医)、小児療育相談センター所長に就任。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 昭和52年<br>(1977年) | 10月 | 療育情報誌「かざぐるま」発刊(県福祉部委託・隔月刊、年6回・2,800部)。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |

|                  |     |                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|------------------|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 昭和53年<br>(1978年) | 4月  | 川崎市親の会「川崎ひまわり父母の会」へソーシャルワーカー出向（昭和56年まで）。親・市民ボランティア・専門家、3者の連携による障害幼児コミュニティケア活動の試行開始。                                                                                                                                                                                     |
| 昭和55年<br>(1980年) | 4月  | 心臓検診事業が県直轄地域の対象数の93%を把握。検診数約41,000人。                                                                                                                                                                                                                                    |
| 昭和56年<br>(1981年) | 4月  | 「神奈川県地域療育システム推進事業（市町村コーディネーター養成事業）」受託。障害児とその家族の地域生活支援に携わる市町村関係者との共同研究および人材養成を開始（平成4年まで）。                                                                                                                                                                                |
| 昭和57年<br>(1982年) | 4月  | 学校保健法の一部改正に伴い、学童の心臓検診に着手。                                                                                                                                                                                                                                               |
|                  | 5月  | 診療相談部門に「学習指導室」を設置。主に自閉症児の指導訓練にあたる。                                                                                                                                                                                                                                      |
|                  | 10月 | 川崎市内の県労働教育福祉センター内に、成人障害者の就労・社会自立のための「障害者生活援助センター」を開設。                                                                                                                                                                                                                   |
| 昭和58年<br>(1983年) | 12月 | 社会福祉法人「青い鳥」を設立（理事長飯田進兼任）。青い鳥愛児園の経営を財団より分離、同法人に移管。                                                                                                                                                                                                                       |
| 昭和59年<br>(1984年) | 8月  | 児童の健全育成を目的とした「子どもの心を育てるために」第1回研修会を開催（以後、年1～2回開催。平成8年の第25回で終了）。                                                                                                                                                                                                          |
| 昭和60年<br>(1985年) | 4月  | 「横浜市保育所障害児巡回相談事業」（横浜市委託）開始。障害児統合保育推進のため年2回を原則として希望園を巡回（平成15年10月の「東部地域療育センター」開設まで継続）。                                                                                                                                                                                    |
|                  | 5月  | 子育てのための通信講座「まいんど」発刊（隔月発行）。                                                                                                                                                                                                                                              |
|                  | 7月  | 小児療育相談センター検診事業部門の眼科診療を週1回から週3回に拡充。                                                                                                                                                                                                                                      |
|                  | 8月  | ◇ 横浜市の「障害児地域総合通園施設構想」にもとづく第一号施設「横浜市南部地域療育センター」が開設され、社会福祉法人「青い鳥」が運営を受託。初代所長佐々木正美医師。青い鳥愛児園は発展的に解消し、同施設内に吸収合併（旧青い鳥愛児園施設は障害者地域作業所等が利用）。                                                                                                                                     |
| 昭和61年<br>(1986年) | 4月  | 川崎市における「視聴覚検診事業」開始。検診数約10,800人。                                                                                                                                                                                                                                         |
| 昭和62年<br>(1987年) | 3月  | 医師、研究者等の協力により、療育指導誌「療育技法マニュアル」発刊（県福祉部委託・以後各年1集発行）。                                                                                                                                                                                                                      |
|                  | 4月  | 「子育て事業室」を新設、機関紙「まいんど」の充実と子育てアドバイザーの養成に着手。                                                                                                                                                                                                                               |
| 平成元年<br>(1989年)  | 3月  | ◇ 社福「青い鳥」理事長に田中信夫就任。                                                                                                                                                                                                                                                    |
|                  | 4月  | 横須賀市における「視聴覚検診事業」開始。検診数約3,800人（県下全域の検診数約80,000人）。                                                                                                                                                                                                                       |
|                  | 11月 | 横浜市自閉症児親の会が社会福祉法人「横浜やまびこの里」を設立。法人の施設開設準備に小児療育相談センターが人的・物的（会議室提供等）の支援・協力を行った。翌年7月、通所施設「東やまた工房」が開所し、施設長に元財団職員が就任。                                                                                                                                                         |
| 平成3年<br>(1991年)  | 4月  | 川崎市川崎区において独自に実施していた障害者就労援助活動に対し、県および川崎市の補助金交付による「障害者地域就労援助センター」として正式発足（「障害者生活援助センター」と呼称、現「川崎南部就労援助センター」）。<br><br>同時に、県および横浜市による補助金交付が確定し、横浜市神奈川区に「地域就労援助センター」発足（市内第一館目、現「横浜東部就労支援センター」）。<br><br>「地域就労援助センター推進事業」（県委託）を開始。県内就労援助関係者に就労援助技術を提供する研修を実施（平成10年まで、延べ800人が受講）。 |

|                  |     |                                                                                                                                |
|------------------|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 10月              |     | 「自閉症児・者治療教育プログラム指導者養成講座」開催。米国ノースカロライナ大学TEACCH部職員を招聘し、県内の自閉症児者の療育や援助に関わる現任者訓練（4泊5日）と講演会を実施。翌年よりフォローアップセミナーとして研修会を毎年開催（平成13年まで）。 |
|                  |     | ◇「横浜市南部地域療育センター」所長に金野公一医師就任。                                                                                                   |
| 平成4年<br>(1992年)  | 4月  | 企業の人事担当者、養護学校進路指導担当教諭等による「障害者雇用システム研究会」（会員約40名）をスタート。障害者の雇用拡大を目的に、特例子会社設立援助等、企業支援に向けた月例の勉強会や企業向け啓発セミナーなどを開催（平成14年まで）。          |
| 平成5年<br>(1993年)  | 4月  | 「地域育児センター機能強化推進事業」が県と市町村の共同事業として本格スタート。平塚市、藤沢市、小田原市、茅ヶ崎市、寒川町の4市1町で実施（翌年より伊勢原市が加わり、5市1町に）。                                      |
|                  | 11月 | 特別シンポジウム「知的障害者の就労援助」を開催（パシフィコ横浜、参加者：全国の福祉施設・教育訓練機関・行政関係者等約500人）。横浜・川崎で始まった「障害者地域就労援助センター」の活動や全国の先進的実践について紹介・意見交換等。             |
| 平成6年<br>(1994年)  | 10月 | 障害者の療育及び児童の健全育成等について幅広く事業が展開できるよう財団寄付行為の一部変更を行った（10月7日付認可）。                                                                    |
| 平成7年<br>(1995年)  | 4月  | 通信講座「まいんど」を「ブックレットまいんど」に改編（年8冊発行、平成16年度まで80冊で終了）。                                                                              |
|                  | 9月  | 「小児療育相談センター」所長に平田一成医師就任。                                                                                                       |
| 平成8年<br>(1996年)  | 3月  | 学校保健法施行規則の一部改正に伴い、小・中・高の就学・進学段階で心電図検査を実施することになり、「県域5歳児心臓検診事業」および「学童心臓検診事業」が終了。                                                 |
|                  | 10月 | ◇社福「青い鳥」が「横浜市中部地域療育センター」および「横浜市清水ヶ丘地域ケアプラザ」運営受託。中部地域療育センター初代所長に金野公一医師就任。                                                       |
| 平成9年<br>(1997年)  | 4月  | 「地域育児センター機能強化推進事業」が国の補助事業の導入によって「子育て支援センター事業」に発展、活動拠点の整備と人的体制を充実。                                                              |
|                  |     | 3歳児健康診査にもとづく視聴覚検診を県域25市町と横須賀市で開始（母子保健法施行規則の一部改正に伴い、県域4歳児検診が廃止になり、3歳児視聴覚検診に移行）。                                                 |
|                  |     | ◇「横浜市中部地域療育センター」所長に山崎扶佐江医師就任。                                                                                                  |
| 平成10年<br>(1998年) | 4月  | 「市町村ガイドヘルパー研修事業」（県委託）を開始（11年まで2年間）。その準備として県手をつなぐ親の会との共同調査「ガイドヘルプニーズ調査」を実施。                                                     |
|                  | 10月 | 財団と社福「青い鳥」の共催により「療育再考セミナー」を開催（かながわ労働プラザ）。全国各地から療育に携わる第一線のリーダー39人が集まり、「知的障害児の療育とはなにか」について討議。                                    |
|                  |     | ◇「横浜市清水ヶ丘地域ケアプラザ」に在宅介護支援センター開設。                                                                                                |
| 平成11年<br>(1999年) | 4月  | 「ファミリー・サポート・センター事業」（厚生労働省補助事業）を小田原市より委託を受けて開始。                                                                                 |
|                  | 9月  | ◇「横浜市清水ヶ丘地域ケアプラザ」が神奈川県より居宅サービス事業者（通所介護）の指定を受ける。                                                                                |
|                  |     | 「療育再考セミナーⅡ」開催（かながわ労働プラザ）。前年に引き続き全国の療育関係者が、求められる視点、技術、生涯にわたるシステム論等を討議。                                                          |
| 平成12年<br>(2000年) | 4月  | ◇介護保険法施行により「横浜市清水ヶ丘地域ケアプラザ」が居宅介護支援事業および通所介護支援事業を開始。                                                                            |

|                  |     |                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|------------------|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                  | 10月 | 心身障害児の早期発見、早期療育などの総合的な小児療育事業の貢献に対して「第52回保健文化賞（第一生命保険相互会社主催）」を受賞。                                                                                                                                                                                                   |
| 平成13年<br>(2001年) | 3月  | ◇ 社福「青い鳥」理事長に飯田進就任。                                                                                                                                                                                                                                                |
|                  | 4月  | ◇ 地域療育センター機能を拡充し、専門スタッフの配置によって、就学後の継続的フォローと新たに問題が顕在化した児童の個別相談・支援を行う「横浜市学齢障害児支援事業(学齢前期)」開始（横浜市福祉局委託事業）。実施機関：各地域療育センター及びリハビリテーションセンター。<br><br>発達障害などの障害児の思春期（中学校期以降）に生ずる不適応、自傷、不登校等の問題行動に対処するため、本人、家族への個別相談・支援を行う「横浜市学齢障害児支援事業（学齢後期）」開始（横浜市福祉局委託事業）。実施機関：小児療育相談センター。 |
| 平成14年<br>(2002年) | 4月  | 「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」（平成12年4月）にもとづく精神障害者の日常生活支援のための施設「横浜市港南区生活支援センター」を財団が運営受託（横浜市衛生局委託事業）。<br><br>◇ 「横浜市中部地域療育センター」所長に田野稔郎医師就任。                                                                                                                                    |
|                  | 10月 | ◇ 「横浜市中部地域療育センター」所長に原仁医師就任。                                                                                                                                                                                                                                        |
| 平成15年<br>(2003年) | 4月  | ◇ 「横浜市南部地域療育センター」所長に飯田美紀医師就任。                                                                                                                                                                                                                                      |
|                  | 9月  | ◇ 社福「青い鳥」が「横浜市東部地域療育センター」の運営を受託。所長に日原信彦医師就任。                                                                                                                                                                                                                       |
| 平成16年<br>(2004年) | 7月  | ◇ 社福「青い鳥」が横浜市より指定管理者として指定を受け、3地域療育センター施設を引続き運営。                                                                                                                                                                                                                    |
| 平成17年<br>(2005年) | 9月  | 病児・緊急預り支援の「緊急サポートネットワーク事業」（厚生労働省委託事業）を受託（平成21年3月、国の方針により終了）。                                                                                                                                                                                                       |
| 平成18年<br>(2006年) | 4月  | 「小児療育相談センター」所長に田野稔郎医師就任。<br><br>「鎌倉市子育て支援センター」が鎌倉市より指定管理者の指定を受ける（平成18～20年度）。<br><br>◇ 「横浜市清水ヶ丘地域ケアプラザ」が横浜市より指定管理者の指定を受ける（平成18～22年度）。<br>◇ 「横浜市清水ヶ丘地域ケアプラザ」が地域包括支援センター事業を開始。                                                                                        |
|                  | 10月 | 財団設立40周年・社福「青い鳥」設立20周年記念事業として記念シンポジウム「早期発見・早期療育のあゆみと展望～地域療育の今後を考える～」を開催、記念誌を刊行                                                                                                                                                                                     |
| 平成19年<br>(2007年) | 3月  | 診療相談部心理・言語相談室の言語部門と検診事業部内の耳鼻科を閉鎖。                                                                                                                                                                                                                                  |
|                  | 6月  | 新設の「横須賀市療育相談センター」が横須賀市より指定管理者の指定を受ける。                                                                                                                                                                                                                              |
|                  | 12月 | 川崎市の民設民営施設「（仮称）川崎市西部地域療育センター」整備・運営事業者に決定。                                                                                                                                                                                                                          |
| 平成20年<br>(2008年) | 1月  | 「川崎市発達相談支援センター」を開設（川崎区砂子、川崎市委託事業）。                                                                                                                                                                                                                                 |
|                  | 3月  | 社会福祉法人として法人格変更を行うため、財団法人神奈川県児童医療福祉財団を解散。                                                                                                                                                                                                                           |
|                  | 4月  | 社会福祉法人「新生会」として発足。<br><br>「横須賀市療育相談センター」を開設（横須賀市小川町はぐくみかん内）。所長に広瀬宏之医師就任。<br><br>検診事業部内の眼科を「小児眼科部」として診療部門を強化。                                                                                                                                                        |
|                  | 6月  | ◇ 引続き3地域療育センターの指定管理者（平成21～25年度）に決定。                                                                                                                                                                                                                                |
|                  | 11月 | 横浜市地域子育て支援拠点事業「鶴見区地域子育て支援拠点」の公募により、運営受託決定。                                                                                                                                                                                                                         |

|                  |     |                                                                                                                                                                                      |
|------------------|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 平成21年<br>(2009年) | 3月  | 「鶴見区地域子育て支援拠点“わっくんひろば”」開所（鶴見区豊岡町）。                                                                                                                                                   |
|                  | 4月  | 「鎌倉市子育て支援センター」が引続き指定管理者の指定を受ける（平成21～23年度）。                                                                                                                                           |
|                  | 6月  | 横浜市地域子育て支援拠点事業「磯子区地域子育て支援拠点」公募による運営受託決定。                                                                                                                                             |
|                  | 12月 | 青い鳥会館（旧青い鳥愛児園施設）の建替え工事着工。                                                                                                                                                            |
| 平成22年<br>(2010年) | 1月  | 「磯子区地域子育て支援拠点“いそピヨ”」開所（JR磯子駅前の複合ビル内）。                                                                                                                                                |
|                  | 3月  | 青い鳥会館 竣工。障害者地域作業所「いそご青い鳥」「青い鳥第二作業所」として、NPO法人アイ・アム に貸与。                                                                                                                               |
|                  | 4月  | 「川崎西部地域療育センター」を開設（宮前区平）。所長に田野稔郎医師就任。<br>「小児療育相談センター」所長に飯田美紀医師就任。                                                                                                                     |
|                  |     | 発達障害児・者の支援強化のため、小児療育相談センター内に「発達障害等支援対策室」を設置。                                                                                                                                         |
| 平成23年<br>(2011年) |     | ◇「横浜市南部地域療育センター」所長に佐々木寧子医師就任。                                                                                                                                                        |
|                  |     | ◇「横浜市南部地域療育センター」が児童デイサービス事業「はらっぱ」を開始（磯子区中原）。                                                                                                                                         |
|                  | 9月  | 引続き「横浜市港南区生活支援センター」の指定管理者（平成23～32年度）に決定。                                                                                                                                             |
|                  | 4月  | ◇「横浜市東部地域療育センター」所長に大屋彰利医師就任。                                                                                                                                                         |
|                  |     | ◇「横浜市東部地域療育センター」が児童デイサービス事業「パレット」を開始（鶴見区鶴見中央）。                                                                                                                                       |
|                  |     | ◇「横浜市清水ヶ丘地域ケアプラザ」が引続き指定管理者の指定を受ける（平成23～27年度）。                                                                                                                                        |
|                  | 5月  | 法人経営基盤の強化・効率性や本部機能の強化による療育事業等の安定的運営に向けて、「新生会」が存続法人となり社会福祉法人「青い鳥」を吸収合併する提案が理事会・評議員会において承認。                                                                                            |
|                  | 8月  | 「発達障害児者支援フォーラム in 横浜～学齢期・思春期の本人、家族に必要な支援を考える～」を開催（関内ホール 大ホール、参加者：療育、福祉、学校等関係者約1,000人）。                                                                                               |
|                  | 9月  | 臨時理事会・評議員会において「新生会」と「青い鳥」の合併契約書等、合併認可申請書が承認。                                                                                                                                         |
|                  | 12月 | 「新生会」と「青い鳥」との合併が認可される（法人名は「青い鳥」）。<br>「磯子区地域子育て支援拠点“いそピヨ”」が「磯子区子育てサポートシステム事業」を開始。                                                                                                     |
| 平成24年<br>(2012年) | 4月  | 合併後の新法人の経営管理と事業部門の機動的推進を行うため、法人本部機能を強化し、組織を再編して社会福祉法人「青い鳥」がスタート。飯田美紀理事長就任。<br>「鎌倉市子育て支援センター」が引続き指定管理者の指定を受ける（平成24～28年度）。<br>「横浜市中心部地域療育センター」が児童発達支援事業所「フルール」（旧児童デイサービス事業）を開設（中区山吹町）。 |
|                  |     | 児童福祉法の改正に伴い「川崎西部地域療育センター」は、多機能型児童発達事業所（「福祉型児童発達支援センター」と「医療型児童発達支援センター」の併設）と、短時間療育の「児童発達支援事業所」、地域支援部門は「障害児相談支援事業所」「保育所等訪問支援事業所」として、指定を受け業務を開始。                                        |
|                  | 10月 | 「鶴見区地域子育て支援拠点“わっくんひろば”」で「鶴見区子育てサポートシステム事業」を開始。                                                                                                                                       |

|                  |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|------------------|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                  | 12月 | 「鶴見区地域子育て支援拠点」がプロポーザルを経て引続き5年間の受託決定（平成25～29年度）。                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 平成25年<br>(2013年) | 2月  | 「川崎市発達障害地域活動支援センター」運営についてのプロポーザル公募に参加し、受託が決定。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|                  | 3月  | 昭和52年発行の療育情報誌「かざぐるま」（神奈川県委託事業）が県の委託終了に伴い、213号で終了。                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|                  | 4月  | 「川崎西部地域療育センター」所長に柴田光規医師就任。<br>「川崎市発達障害地域活動支援センター」開設準備室を設置。<br>児童福祉法の改正に伴い、新たに指定を受けて次の事業を開始した。<br>・横浜市3地域療育センター「福祉型児童発達支援センター」「医療型児童発達支援センター」「障害児相談支援事業」「保育所等訪問支援事業」<br>・横浜市東部地域療育センター児童発達支援事業所「パレット」<br>・横浜市南部地域療育センター児童発達支援事業所「はらっぱ」<br>・横須賀市療育相談センター「福祉型児童発達支援センター」「医療型児童発達支援センター」障害者総合支援法の改正に伴い、新たに指定を受けて次の事業を開始した。<br>・横浜市港南区生活支援センター「地域相談支援事業」「計画相談支援事業」 |
|                  | 7月  | 児童福祉法等の改正に伴い、新たに指定を受けて次の事業を開始した。<br>・横須賀市療育相談センター「障害児相談支援事業」「計画相談支援事業」                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|                  | 10月 | 「川崎市発達障害地域活動支援センター ゆりの木」開所（麻生区上麻生）。<br>「横浜市東部・中部・南部地域療育センター」の平成26年度から5年間の次期指定管理者として、選定委員会の審査を経て選定された。                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 平成26年<br>(2014年) | 3月  | 小児療育相談センター開設時（昭和43年）から続いた「在宅心身障害児検診相談事業」（神奈川県委託事業）が終了。                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|                  | 4月  | 「横浜市中部地域療育センター」所長に高木一江医師就任。<br>小児療育相談センター小児眼科部において「視覚認知検査・トレーニングモデル事業」を開始。<br>「開成町ファミリー・サポート・センター」開設準備室を設置。                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 平成26年<br>(2014年) | 9月  | 「開成町ファミリー・サポート・センター」開所。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|                  | 12月 | 「磯子区地域子育て支援拠点」がプロポーザルを経て引き続き5年間の受託決定（平成27年～31年度）。                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 平成27年<br>(2015年) | 1月  | 「第2回 発達障害者支援フォーラム in 横浜～ライフステージに応じた発達障害者支援をめざして～」を開催（横浜市教育会館ホール、参加者：療育、福祉、学校関係者約440人）。                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|                  | 4月  | 「横浜市南部地域療育センター」所長に井上祐紀医師就任。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|                  | 9月  | 小児療育相談センターの長寿命化に向けた改修工事完了（第1期：平成23年度～第5期：平成27年度）                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|                  | 10月 | 「秦野市子育て支援センターぽけっと21にし」開所。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|                  | 12月 | 「茅ヶ崎市香川駅前子育て支援センター」開所。<br>横須賀市療育相談センターは、平成28年4月1日より8年間の指定管理事業者として選定・承認。                                                                                                                                                                                                                                                                                       |

|                  |     |                                                                                                                                                                                                                           |
|------------------|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 平成28年<br>(2016年) | 3月  | 横浜市清水ヶ丘地域ケアプラザは、平成28年3月31日をもって事業撤退。                                                                                                                                                                                       |
|                  | 8月  | 50周年記念展覧会「ひろげよう ぼくのつばさ わたしのつばさ展2016」                                                                                                                                                                                      |
|                  | 9月  | 法人設立50周年記念式典                                                                                                                                                                                                              |
|                  | 10月 | 名誉顧問 飯田進 逝去<br>「鎌倉市子育て支援センター」がプロポーザルを経て引き続き5年間の受託決定（平成28年～33年度）。                                                                                                                                                          |
| 平成29年<br>(2017年) | 1月  | 「開成町地域子育て支援拠点（子育て支援センター、ファミリー・サポート・センター併設）」がプロポーザルを経て引き続き3年間の受託決定（平成29年～31年度）。                                                                                                                                            |
|                  | 2月  | 「第3回 発達障害者支援フォーラム 各ライフステージで大切なこと～発達障害者の就労に向けての支援～」を開催（新都市ホール、参加者：療育、福祉、学校関係者約600人）。<br>「秦野市つどいの広場・ぼけっと21ミライエ」開所。                                                                                                          |
|                  | 3月  | 「鶴見区地域子育て支援拠点わっくんひろば サテライト」開所。<br>50周年記念誌を発行。                                                                                                                                                                             |
|                  | 6月  | 「横浜市東部地域療育センター」が「相談ルーム いろは」を開所（鶴見区鶴見中央）。                                                                                                                                                                                  |
|                  | 12月 | 「鶴見区地域子育て支援拠点わっくんひろば」がプロポーザルを経て引き続き5年間の受託決定（平成30年～34年）                                                                                                                                                                    |
| 平成30年<br>(2018年) | 1月  | 横浜市東部地域療育センター「相談ルーム いろは」が新たに指定を受けて「障害児相談支援事業」を開始。                                                                                                                                                                         |
|                  | 4月  | 「横浜市東部地域療育センター」所長に有賀道生医師、就任。                                                                                                                                                                                              |
| 平成31年<br>(2019年) | 2月  | 横浜市港南区生活支援センターが新たに指定を受けて「自立生活援助事業」を開始。<br>「横浜市東部・中部・南部地域療育センター」の平成31年度から5年間の次期指定管理者として、選定委員会の審査、横浜市会の議決を経て指定された。<br>「第4回 発達障害者支援フォーラム 地域で育ち、地域で暮らす発達障害児・者への支援～家族に寄り添い、地域とのつながり、社会へはばたけ！～」を開催（関内ホール、参加者：療育、福祉、学校関係者約454人）。 |
|                  | 3月  | 事業計画と財務計画が一体となった第一期中期経営計画（2019～2023年度）                                                                                                                                                                                    |
|                  | 9月  | 横浜市の視聴覚健診事業の対象年齢を4歳から3歳に引き下げて検査を実施。                                                                                                                                                                                       |
|                  | 10月 | 「座間市子育て支援センター」が新たにプロポーザル方式となり5年間の受託決定（令和2～6年度）。                                                                                                                                                                           |
|                  | 11月 | 「磯子区地域子育て支援拠点」がプロポーザルを経て引き続き5年間の受託決定（令和2～6年度）。                                                                                                                                                                            |
|                  | 12月 | 「開成町地域子育て支援拠点（子育て支援センター、ファミリー・サポート・センター併設）」がプロポーザルを経て引き続き3年間の受託決定（令和2～4年）                                                                                                                                                 |
| 令和元年<br>(2019年)  |     |                                                                                                                                                                                                                           |
| 令和2年<br>(2020年)  | 4月  | 「横浜市南部地域療育センター」所長に磯崎仁太郎医師、就任。<br>「横浜市東部地域療育センター」所長に高橋雄一医師、就任。<br>川崎西部地域療育センターが新たに指定を受けて「居宅訪問型児童発達支援」を開始。                                                                                                                  |

## 社会福祉法人青い鳥 役員・評議員名簿

|       |         |                          |
|-------|---------|--------------------------|
| 理 事 長 | 飯 田 美 紀 | 小児療育相談センター所長             |
| 常務理事  | 本 田 秀 俊 | 事務局長                     |
| 監 事   | 小 倉 正   | 公認会計士                    |
| 監 事   | 園 部 正 一 | 元横浜市監査事務局財務監査部長          |
| 理 事   | 北 田 幸 三 | 弁護士                      |
| 理 事   | 石 渡 和 実 | 東洋英和女学院大学人間科学部教授         |
| 理 事   | 谷 内 徹   | 前(福)横浜市福祉サービス協会理事長       |
| 理 事   | 廣 瀬 宏 之 | 横須賀市療育相談センター所長           |
| 理 事   | 高 木 一 江 | 横浜市中部地域療育センター所長          |
| 評 議 員 | 長 井 晶 子 | (福)久良岐母子福祉会理事長           |
| 評 議 員 | 小 椋 健 生 | (株)富士タクシー、五光交通(株)代表取締役   |
| 評 議 員 | 岸 本 孝 男 | (福)ももの会理事長               |
| 評 議 員 | 齊 藤 毅 憲 | 横浜市立大学名誉教授、放送大学客員教授      |
| 評 議 員 | 長谷山 景 子 | 横浜障害児を守る連絡協議会会長          |
| 評 議 員 | 土 井 久美子 | 神奈川LD等発達障害児・者親の会 にじの会副代表 |
| 評 議 員 | 磯 貝 康 正 | (福)白根学園常務理事兼学園長          |
| 評 議 員 | 小 川 淳   | 前横浜市総合リハビリテーションセンター長     |



## 案内図



### 交通アクセス

- ★京浜急行：横須賀中央駅より徒歩 8 分
- ★JR 横須賀線：横須賀駅より  
京急バス 4 分「大滝町」バス停  
京急バス 5 分「市役所前」バス停

社会福祉法人青い鳥  
横須賀市療育相談センター

## 事業概要

— 令和元年度 版 —

令和 2 年 1 2 月

編集・発行 社会福祉法人 青い鳥  
横須賀市療育相談センター  
〒238-8530 横須賀市小川町 16 番地  
(はぐくみかん内)  
電 話 046(822)6741 (代表)  
FAX 046(823)1798  
ホームページ：<http://www.aoitori-y.jp>